２０１９年度

首 都 大 学 東 京

「観光経営副専攻コース」

「観光マネジメント副専攻コース」

シ ラ バ ス

首都大学東京

観光経営副専攻コース

観光マネジメント副専攻コース

目　　次

観光経営副専攻
観光経営副専攻コースの概要 …… 2

観光経営副専攻コースの履修方法 …… 3

履修科目一覧 …… 4

観光経営副専攻コースの時間割 …… 6

シラバス …… 7

観光マネジメント副専攻
観光マネジメント副専攻コースの概要 …… 28

観光マネジメント副専攻コースの履修方法 …… 29

履修科目一覧 …… 30

観光マネジメント副専攻コースの時間割 …… 31

シラバス …… 32

成績の評価項目と基準 …… 45

９号館２階見取り図 …… 46

副専攻コース履修申出書 …… 47

観光経営副専攻コースの概要

副専攻コースとは

副専攻コースは、学生が、自分が所属し専攻する学科・コース（以下「主専攻コース」という）とは異なる特定の専門領域について体系的に学ぶことにより、複数の領域にわたる複合的な専門知識を修得し、視野を拡大することを目的とする履修コースである。
「観光経営副専攻コース」は、主たる担当部局である都市環境学部自然・文化ツーリズムコースに加えて都市教養学部経営学系他の協力を得て運営されている。

観光経営副専攻コースのコンセプト

観光経営副専攻コースは、観光とその経営に関する教育プログラムを提供し、都市・自然・社会と調和した持続発展可能な観光を支え、観光関連企業、観光行政、地域において第一線で企画立案やマネジメントに携わるリーダーとなり得る、国際的視野と先端的なマネジメント能力を兼ね備えた先導的人材の育成を目指す。

対象とする学生

２０１１年度（平成２３年度）以降から２０１７年度（平成２９年度）以前入学のすべての学部学生を対象とする。とりわけ、将来、観光産業や観光行政の幹部、観光関連分野での地域リーダーとして活躍しようとする学生、マネジメント能力に磨きをかけ様々な分野のリーダーとして活躍しようとする学生、また、本学大学院を含む観光分野の大学院に進学を希望する学生などには本副専攻コースの履修を強く推奨する。

観光経営副専攻コースの履修方法

観光経営副専攻コース履修の申出

観光経営副専攻コースの履修を希望する学生は、２年次後期または３年次前後期の所定の履修申請期間に「副専攻コース履修申出書」に必要事項を記入し、都市環境学部教務係（９号館２階、図参照）に提出する。なお申出書は巻末に掲載してあるので、それを複写して用いること。

また、原則として４月、７月、１０月、１月に開催される「観光経営副専攻コース履修ガイダンス」に２年次または３年次に参加し、履修方法について理解しておくことが望ましい。

観光経営副専攻コースの履修科目と修了認定要件

観光経営副専攻コースの開講科目は、次頁の履修科目一覧にあげるとおり、全学共通科目では教養科目群の３科目、基盤科目群の９科目、専門教育科目では経営学系専門教育科目の８科目、自然・文化ツーリズムコース専門教育科目の５科目、および観光経営副専攻コース専門教育科目８科目である。これらの科目について、科目一覧の分野区分ごとの要件に従い、２６単位以上履修することが修了認定要件である。

各自の所属するコース・学科の履修科目と本副専攻コースの履修科目が重複する場合、原則として、それぞれについて修了認定科目と換算することができる（詳細は、各自の所属するコース・学科の卒業要件を参照すること。）。ただし、各自の所属するコース・学科の専門教育科目の単位を本副専攻コースの修了認定単位に算入できるのは８単位までである。

主専攻コースを修了し、かつ、上記の修了認定要件を満たした者には、観光経営副専攻コースを修了したことを認定するとともに、卒業時には副専攻コース修了証書が授与される。

観光経営副専攻コースの各科目の履修方法

観光経営副専攻コースの科目を履修する際は、通常の方法により履修申請（登録）を行うこと。

「副専攻コース履修申出書」を提出していない学生であっても、本副専攻コースが開講する個々の科目を受講することは可能であるが、興味のある学生は履修申請（登録）を行うことを推奨する。

観光経営副専攻コースの掲示について

観光経営副専攻コースの掲示については、インフォメーションギャラリーの都市環境学部掲示板等に留意すること。

履修科目一覧（2013 年度以降入学生）

2012 年度以前の入学生は、対象となる科目名が一部このページのものとは異なるため、次ページの履修科目一覧の表を参照すること。

分野	１～２年次の履修推奨科目			３～４年次の履修推奨科目		
	区分	科目名	要件	区分	科目名	要件
経営戦略・人材・組織	基盤	経営学入門	１科目以上	副	サービスマネジメント	３科目以上
	経	経営戦略論		副	ホスピタリティ産業の経営戦略論	
	経	経営組織論		経	ヒューマン・リソース・マネジメント	
				経	経営行動論	
会計・財務	基盤	会計学入門	１科目以上	経	原価計算論	１科目以上
	基盤	ファイナンス入門		副	ホスピタリティ産業の財務管理論	
IT・ビジネススキル	基礎	（情報リテラシー実践Ｉ）	必修	経	生産物流システム	１科目以上
	基盤	法学入門	１科目以上	経	意思決定論	
	基盤	民事法入門		ツ	観光関連法規概説	
	基盤	統計学Ｉ		ツ	コミュニケーション学	
マーケティング・産業論	教	ツーリズム産業論	１科目以上	ツ	観光資源論	３科目以上
	基盤	入門ミクロ経済学		副	宿泊産業論 （隔年開講予定 2019 年度開講）	
	基盤	入門マクロ経済学		副	旅行産業論 （隔年開講予定 2019 年度不開講）	
	基盤	サービス・マーケティング		副	MICE （隔年開講予定 2019 年度開講）	
	経	マーケティング・マネジメント		副	インターンシップ	
				副	海外宿泊旅行サービス研究	
専門教養	基礎	（実践英語 I）	必修	ツ	観光地理学 （隔年開講予定 2019 年度不開講）	※２
	教	日本の歴史と社会・文化	※１	ツ	観光地誌学 （隔年開講予定 2019 年度開講）	
	教	歴史学入門				

※１および※２の中から１科目以上

※区分略号一覧
　全学共通科目：
　　基礎：基礎科目群　（全学必修につき、修了認定要件 26 単位に含まれない）
　　教：教養科目群　基盤：基盤科目群
　専門教育科目：
　　経：経営学系専門教育科目
　　ツ：自然・文化ツーリズムコース専門教育科目
　　副：観光経営副専攻コース専門教育科目

参考：履修科目一覧（2012 年度以前入学生）

分野	１～２年次の履修推奨科目			３～４年次の履修推奨科目		
	区分	科目名	要件	区分	科目名	要件
経営戦略・人材・組織	経	経営学	１科目以上	副	サービスマネジメント	３科目以上
	経	経営戦略論		副	ホスピタリティ産業の経営戦略論	
	経	経営組織論		経	ヒューマン・リソース・マネジメント	
				経	経営行動論	
会計・財務	経	会計学Ⅰ	１科目以上	経	原価計算論	１科目以上
	経	ファイナンス		副	ホスピタリティ産業の財務管理論	
IT・ビジネススキル	基	（情報リテラシー実践Ⅰ）	必修	経	経営システム	１科目以上
	教	法学入門	１科目以上	経	意思決定論	
	教	民事法入門		ツ	観光関連法規概説	
	教	統計学Ⅰ		ツ	コミュニケーション学	
マーケティング・産業論	教	ツーリズム産業論	１科目以上	ツ	観光資源論	３科目以上
	教	入門ミクロ経済学		副	宿泊産業論 （隔年開講予定 2019 年度開講）	
	教	入門マクロ経済学		副	旅行産業論 （隔年開講予定　2019 年度不開講）	
	教	サービス・マーケティング		副	MICE （隔年開講予定 2019 年度開講）	
	経	マーケティング		副	インターンシップ	
		（基礎経済学：現在は閉講科目）		副	海外宿泊旅行サービス研究	
専門教養	基	（実践英語Ⅰ）	必修	ツ	観光地理学 （隔年開講予定　2019 年度不開講）	※２
	教	日本の歴史と社会・文化	※１	ツ	観光地誌学 （隔年開講予定 2019 年度開講）	
	教	歴史学入門				

※１および※２の中から１科目以上

※区分略号一覧
基：基礎教育科目（全学必修につき、修了認定要件 26 単位に含まれない）
教：都市教養プログラム
経：経営学系専門教育科目
ツ：自然・文化ツーリズムコース専門教育科目
副：観光経営副専攻コース専門教育科目

観光経営副専攻コースの時間割

下に掲載する時間割は 2019 年度開講のものであるが、変更になる場合があるため、時間割及び授業案内（シラバス）、ＷＥＢシラバス、掲示なども必ず確認すること。

＊印がついている科目は、科目名と授業番号が入学年度で異なるが、2013 年度以降入学者の科目名を掲載している。詳細は、ＷＥＢシラバス及び全学共通科目（基礎科目群、教養科目群、基盤科目群）は授業案内（シラバス）、経営学系専門教育科目は経営学系授業概要を参照すること。

前期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
１限	[基盤]統計学Ⅰ	[基盤]統計学Ⅰ	[経]ヒューマン・リソース・マネジメント		[基盤]法学入門 [基盤]統計学Ⅰ
２限	[教]日本の歴史と社会・文化 [基盤]入門ミクロ経済学	[ツ]観光資源論	[経]マーケティング・マネジメント＊	[基盤]サービス・マーケティング [基盤]入門マクロ経済学 [経]原価計算論 [ツ]観光関連法規概説	
３限	[経]経営行動論	[教]歴史学入門 [経]意思決定論	[副]宿泊産業論 [基盤]会計学入門	[基盤]経営学入門＊	
４限					
５限	[経]生産物流システム				

後期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
１限				[経]経営組織論	
２限				[基盤]民事法入門 [基盤]ファイナンス入門＊ [副]ホスピタリティ産業の財務管理論 [ツ]コミュニケーション学	
３限	[ツ]観光地誌学	[経]経営戦略論	[教]ツーリズム産業論 [副]MICE	[副]ホスピタリティ産業の経営戦略論	
４限				[副]サービスマネジメント	
５限					

集中授業第Ⅰ期（前期に開講、履修申請時期は前期・通年科目と同様）

[副]インターンシップ	[副]海外宿泊旅行サービス研究

※区分略号一覧

全学共通科目：

基礎：基礎科目群　（全学必修につき、修了認定要件 26 単位に含まれない）

教：教養科目群　基盤：基盤科目群

専門教育科目：

経：経営学系専門教育科目

ツ：自然・文化ツーリズムコース専門教育科目

副：観光経営副専攻コース専門教育科目

■シラバス

以下には、専門教育科目のシラバスのみ掲載している。なお、これらの科目のシラバスは、全てＷＥＢシラバスでも確認することができる。その他の全学共通科目（基礎科目群、教養科目群、基盤科目群）はＷＥＢシラバス及び授業案内（シラバス）で確認すること。

■経営学系専門教育科目

＊印がついている科目は、科目名と授業番号が入学年度で異なるが、2013 年度以降入学者の科目名を掲載している。詳細は、ＷＥＢシラバス及び経営学系授業概要を参照すること。

H061	経営戦略論	担当教員	竹田　陽子	後期・火３	2 単位
①授業方針・テーマ	経営戦略は、企業が「われわれはどのような存在であるのか」「どこへ向かいたいのか」「そこに至るまでの道筋」を考え、行動することである。講義では企業が直面する次のような問題を扱う。 - どのような付加価値をどのように生み出すのか - 競争相手に付加価値を奪われないようにするにはどうしたらよいのか - 他者と共に付加価値を生み出すためにどのような関係を形成していくのか - 自ら保有する資源をどのように使うのか - 企業内部にどのような資源を蓄積していくのか				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営戦略に関する主要な理論を理解し、学んだ概念を企業や社会で起こっている諸問題に適用して分析できるようになること、さらには、将来社会で実践に携わるときに参照できるフレームワークを体得することを目標とする。				
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画】 1. 経営戦略とは何か 戦略に関する見方の変遷とアプローチ 2. 企業の境界、垂直統合 3. 多角化、事業ドメイン 4. ポジショニング・アプローチ： 外部環境分析 5. ポジショニングの型 6. 価格戦略 製品戦略 7. ネットワークの外部性 市場参入のタイミング 代替品の戦略 8. ゲーム・アプローチ：　競争と協調 9. 資源アプローチ：コアコンピタンス、模倣困難性、見えざる資産 10. 企業間の対立と協力 11. プラットフォーム戦略とエコシステム 12. 動的能力アプローチ： ダイナミック・ケイパビリティ、組織変革 13. 組織学習、技術革新 14. 創発、創造の場 15. 期末試験 【授業方法】 講義中心であるが、授業中および授業外時間に課す小レポートとクイズのレビューを随時実施する。				
④授業外学習	小レポートや期末テストの論述問題のために、自ら問題意識を持って情報を探索し、文献を読み込む能動的な学習が求められる。また、毎回の授業内容の復習は必須。				
⑤テキスト・参考書等	コース全体の推薦テキストは、 Besanko, D. et al. (2000) 『戦略の経済学』ダイヤモンド社 Barney, J.B. (2002) 『企業戦略論　上中下』ダイヤモンド社 テーマごとの参考文献は授業中に紹介する。				
⑥成績評価方法	期末テスト 70%、小レポートとクイズ 30%。(特に優秀な回答には加点)				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとれば対応する。メールアドレスは初回授業で告知する。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	ミクロ経済学と経営組織論を履修することが望ましい。				

H074	経営組織論	担当教員	高尾　義明	後期・木１	2単位

①授業方針・テーマ	企業組織を主要な対象として、組織についてのマクロ理論(マクロ組織論）及びミクロ理論(ミクロ組織論）を併せて学習することを通じて、経営と組織の関係についての考察を深めていく。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「組織の時代」である現代において、本講義で修得できる知識は、企業をはじめとした組織体のマネジメントに携わるための教養的知識といえる。具体的には、マクロ理論（マクロ組織論）を学習し、組織の構造や個人に還元できない組織の創発的側面についての理解を深めることによって、組織の有効性に影響を与える要因を分析するための知識が得られる。また、ミクロ理論（ミクロ組織論）の学習を通じて、組織のメンバーとしてどのように組織とかかわり、ふるまうべきかを内省する手がかりとなる知識を獲得できる。また、授業中に実施するグループワークを通じて、他者とのコミューニケーション能力を高めることもできる。
③授業計画・内容	01回 イントロダクション―経営組織論の基本枠組み、ガイダンス 02回 組織構造①：基本的調整メカニズムとしての公式構造 03回 組織構造②：公式構造に付随する問題と非公式構造の創発 04回 組織行動①：モチベーションの内容理論 05回 組織行動②：モチベーションの過程理論 06回 組織行動③：行動科学的リーダーシップ論 07回 組織の環境①：事業環境と管理システムの適合 08回 組織と環境②：組織間関係と埋め込み・制度 09回 組織文化①：強い文化論のインパクト 10回 組織文化②：強い文化論への批判からの展開 11回 組織のダイナミズム①：組織学習 12回 組織のダイナミズム②：組織能力と経営戦略 13回 ケースを用いた総合ディスカッション① 14回 ケースを用いた総合ディスカッション② 15回 試験及び解説 【授業方法】：講義が中心であるが、適宜質問を投げかけ、受講生に回答を求める。また、約半数の授業において講義中にグループワークを実施する。
④授業外学習	毎回の授業(及びkibaco)で提示する次回の授業内容に関連した問いに対する回答を準備して授業に臨むこと。また、授業の復習を行う際に受講生に解説を求めるので、授業の復習を行うこと。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：指定しない 参考書：桑田耕太郎・田尾雅夫『組織論　補訂版』(有斐閣、2010年）定価2,268円 二村敏子（編著)『現代ミクロ組織論』(有斐閣、2004年）　定価2,592円 山田耕嗣・佐藤秀典『コア・テキスト マクロ組織論 』(新世社、2014年）　定価3,132円 他にも授業中に指示し、配布可能なものについてkibacoを通じて配布する。
⑥成績評価方法	期末試験の点数を基礎（約80%)にしながら、グループワークなどを通じた講義への積極的貢献（約20%）を加味して成績評価を行う。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等)	原則として、授業期間中の毎週水曜日14:00-15:00をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前々日までに必ずメール（ytakao@tmu.ac.jp）で予約をした上で研究室（3号館224号室）まで来てください。
⑧特記事項 （他の授業科目との関連性)	【他の科目との関連性】経営学入門を履修済みであることを前提として授業を行う。

H417	マーケティング・マネジメント*	担当教員	水越　康介	前期・水２	2 単位

①授業方針・テーマ	本授業では、マーケティングの基礎的な領域としてマーケティング･マネジメントを学びます。個々のマーケティング活動そのものは、われわれにとってもなじみの深いものがほとんどです。顧客ニーズを元にした製品開発、メディアを通じた広告活動、百貨店やコンビニといった販路の確保、特売やポイント制を通じた価格戦略。授業では、こうした日常的な事例をふまえつつ、できるだけディスカッションを通じながら、その背後にあるマーケティングの論理を明らかにしていきます。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本授業では、マーケティングの基礎を学ぶことができます。
③授業計画・内容 授業方法	1 回　オリエンテーション、マーケティングの基本 2 回　顧客の理解 3 回　マーケティング戦略の立案 4 回　製品政策 5 回　価格政策 6 回　プロモーション政策 7 回　流通政策 8-9 回　マーケティング・ミックスの統合 10 回 戦略的マーケティング 11-12 回　市場資源のマーケティング 13-14 回　マーケティングの拡張 15 回　試験と解説
④授業外学習	予習、復習、レポート作成
⑤テキスト・参考書等	黒岩健一郎・水越康介『マーケティングをつかむ　新版』有斐閣、2018。 ※本授業では、電子書籍（VarsityWeb eBooks:生協)を利用します。書籍購入に際しては、初回オリエンテーション後に行うこと。 水越康介･黒岩健一郎『考えて議論しながらつかむ、ある日の午後のマーケティング授業の風景』有斐閣、2015、キンドル版。
⑥成績評価方法	授業課題および試験。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等)	オフィスアワーは、水曜日、12:00-13:00 です。事前に授業中に提示するメールアドレスまでご一報ください。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性)	

H004	ヒューマン・リソース・マネジメント	担当教員	西村　孝史	前期・水１	２単位

①授業方針・テーマ	ヒューマン・リソース・マネジメントは，大学によっては，人材マネジメント，人事管理論，あるいは労務管理論などとも呼ばれますが，いずれも経営資源の中でも人に注目をする学問分野です。他の経営資源と異なり「ヒト」は心を持つゆえに，その時々の気持ちによって彼（女）のパフォーマンスは変化します。組織の中で人（従業員）に働いてもらう，あるいは人がワクワクした気持ちで主体的に働きたいと思うようになるために企業はどのような仕組みを用いているのか，その原理は何かを学びます。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人を動かす仕掛けとして企業がどのような人事施策を用いているのか，なぜそれらの人事施策が機能する（しない）のかを考えることで，表層的な知識だけでなく，背後のメカニズムに関する知識を得ます。また，仕事経験の積み重ねとして得られるキャリアをどのように構築していくのかについて，皆さんが社会に出るに前に基本的な考え方を習得することを目的とします。
③授業計画・内容 授業方法	仮予定です。変更する可能性があります。 【教室では授業資料の紙媒体での配布は行わないので注意すること】 1回　イントロダクション／ガイダンス（講義目的・履修上の留意点等） 2回　人材マネジメントが扱う範囲 3回　人事制度の基礎：人事の基盤システム（１）格付制度 4回　人事制度の基礎：人事の基盤システム（２）社員区分制度 5回　多様な働き方（正社員） 6回　多様な働き方（非正社員） 7回　採用管理 8回　採用管理の続き・日本的経営 9回　日本的経営の変化：成果主義の導入 10回　評価・処遇（公正性） 11回　ゲストスピーカー（ゲストの予定により前後に変更する可能性あり） 12回　評価の続き・労働時間 13回　異動・移動 14回　キャリア・教区訓練（OJT） 15回　教育訓練（Off-JT，自己啓発）・試験
④授業外学習	１．kibaco にアップされる授業のレジュメ，新聞や雑誌記事などに事前に目を通しておくこと。 ２．毎回簡単な課題を出します。紙にまとめる必要はないので，答えを考えたうえで授業に出席すること。場合にとってはその課題を元に周囲の人と話し合いをすることもあります。 ３．資料は予め目を通してくることを前提に多めに配布しています。したがって，配布した内容がその週に完結するとは限りません。 ４．自分のアルバイト経験や部活動の経験，あるいは身近な大人の行動と授業で習った内容を自分なりに結びつけることを意識すること。
⑤テキスト・参考書等	指定の教科書は特になし。kibaco で配布される資料の予習・復習を行うこと。 但し，以下の文献を自主的に勉強することで授業内容がより理解できる。 １．平野光俊・江夏幾多郎(2018)『人事管理』有斐閣. ２．守島基博(2004)『人材マネジメント入門』 日本経済新聞社. ３．今野浩一郎(2009)『人事管理入門 第２版』日本経済新聞社. ４．佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2015)『新しい人事労務管理 第５版』有斐閣アルマ. 他にも必要があれば，授業中に指示する
⑥成績評価方法	授業態度 20%（毎回ではなく，ランダムに配布するコメントシート） 期末試験 80% ※いかなる理由であっても，コメントシート配布時に教室にいなかった学生に後からコメントシートを再配布することはないので注意すること。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは，水曜日 12:00-14:30 で研究室（3 号館 305 号室）であるが，訪問の際は事前にメールにて教員にアポイントを取ること。教員のメールアドレスは，毎回の資料の表紙に記載されている。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【注意】 １．授業資料の配布は，原則として kibaco を通じて行うので，各自ダウンロードして出力のうえ授業に臨むこと。教室での紙での配布は行わない 。 ２．この科目は，経営学の応用分野のため，経営学に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。例えば，経営学（経営学入門）を履修済みであることが望ましい。

H220	経営行動論	担当教員	山口　みどり*	前期・月３	2 単位

①授業方針・テーマ	経営行動論は、経営者が、企業組織の目標達成に向けてどのような行動をとっているのかを解明しようとする学問である。経営者は、自ら製品を生産したり販売したりしているわけではない。しかし、こうした仕事を行う現場の人々の行動に影響を与えることで、企業組織の目標達成に貢献している。 本講義では、経営戦略論・経営組織論・経営管理論を横断的に概観しながら、経営者が企業組織の目標達成のためにいかなる経営行動をとっているのかを明らかにしていく。具体的には、経営行動を「組織をつくる」「維持する」「変革する」の三つに分け、それぞれに関する経営学の概念・理論を解説する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	【到達目標】経営者の役割・行動を学ぶことにより、企業経営とは何かを理解する。 ・経営行動の観点から、企業の戦略・組織・管理システムの間の関係を統一的に理解できるようになる（経営戦略論・経営組織論・経営管理論をより深く理解できるようになる）。 ・現実の企業の成功・失敗の原因を、経営学的なアプローチで分析できるようになる。 ・中上級レベルのテキストを読み、そこに書いてある理論を使って企業の事例を分析することにより、読解力・分析力・論理的思考力を身につけることができる。
③授業計画・内容 授業方法	第 1 回　ガイダンス：なぜ経営行動論を学ぶのか？ 第 2 回　組織をつくる（１）組織目標の設定 第 3 回　組織をつくる（２）戦略の立案 第 4 回　組織をつくる（３）組織均衡とビジネスシステムの設計 第 5 回　組織をつくる（４）取引関係の選択 第 6 回　組織をつくる（５）組織間関係のマネジメント 第 7 回　組織を維持する（１）組織構造のデザイン①分業の設計 第 8 回　組織を維持する（２）組織構造のデザイン②部門化 第 9 回　組織を維持する（３）組織構造のデザイン③調整メカニズムの選択 第 10 回　組織を維持する（４）組織コミュニケーション 第 11 回　組織を維持する（５）組織文化の形成・変革 第 12 回　組織を変革する（１）変革の必要性の認識 第 13 回　組織を変革する（２）企業成長に伴う組織変革 第 14 回　組織を変革する（３）環境変化への対応としての組織変革 第 15 回　期末試験・問題解説 【授業方法】講義を中心とした授業を実施するが、授業中に新聞記事などを配布し、経営学の概念や理論を使って企業の事例を分析する課題を行うなど、講義で学んだ経営学を「使う」方法についても学べるようにする。なお、上記の講義計画は、履修者の関心や理解度に応じて適宜変更する。
④授業外学習	毎回の授業後、kibaco 上に次回授業の配布資料を提示するので、そこに書いてあるテキストの該当部分・参考文献を読み、疑問点を明確化した上で授業に臨むこと。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：桑田 耕太郎・田尾 雅夫著『組織論 補訂版』（有斐閣 2010 年）定価 2268 円 参考書：講義中に指示する。
⑥成績評価方法	期末試験の成績に講義中課題・小テスト等の成績を加味して評価する。 （期末試験 80％／講義中課題・小テスト等 20％）
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	原則として講義終了後に対応する。メールによる質問も可。メールアドレスは開講時に通知する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】本講義は中級レベルであり、内容をより深く理解するためには、経営学・経営戦略論・経営組織論などを履修し、経営学の基礎知識を有していることが望ましい。

H086	原価計算論	担当教員	妹尾 剛好*	前期・木２	2単位
①授業方針・テーマ	原価計算は、企業が株主や銀行などの外部の関係者に向けて財務諸表を作成するために役立つものです。しかし、原価計算の役割はそれだけではありません。原価計算は社長から現場の従業員まで、企業内部の関係者のためにも役立ちます。具体的には、製品の価格決定などの「意思決定」や原価低減に向けた人や組織の「コントロール」のために用いることができます。この授業では、企業の生産システムとの関連を意識したうえで、製造業の原価計算の基礎を学習します。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	この授業は、企業の意思決定とコントロールに役立つ原価計算の基礎知識の習得を目的とします。そして、みなさんが原価計算の基礎知識をマスターし、実際のビジネスで活用できるようになることを到達目標とします。				
③授業計画・内容 授業方法	《授業計画・内容》 第 1 回　シラバス確認、ガイダンス 第 2 回　費目別計算（1）：材料費の計算 第 3 回　費目別計算（2）：労務費の計算 第 4 回　費目別計算（3）：経費の計算 第 5 回　個別原価計算（1）：個別原価計算の概要 第 6 回　個別原価計算（2）：製造間接費の計算 第 7 回　部門別原価計算（1）：部門別原価計算の概要 第 8 回　部門別原価計算（2）：製造部門費の配賦 第 9 回　部門別原価計算（3）：補助部門費の配賦 第 10 回　総合原価計算（1）：総合原価計算の概要 第 11 回　総合原価計算（2）：度外視法による正常仕損・減損の処理 第 12 回　総合原価計算（3）：非度外視法による正常仕損・減損の処理 第 13 回　総合原価計算（4）：異常仕損・減損の処理 第 14 回　第 1 回から第 13 回までのまとめ 第 15 回　期末試験・問題解説 《授業方法》 講義を中心とした授業を実施しますが、授業中に適宜質問を投げかけるとともに、毎回授業のはじめに小テストを行います。				
④授業外学習	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておいてください。				
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に使用しません。授業でプリントを配布して講義を行います。 参考書：林總著『「原価計算」しているのに、なぜ「儲け」が出ないのか?　コストを見える化する「ABC」入門』（日本実業出版社　2018 年）				
⑥成績評価方法	期末試験 70%、平常点（授業態度・提出物の有無等）30%				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	質問はメールで受付けます。メールアドレスについては初回授業時にお伝えします。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特別な予備知識を必要としませんが、他の会計科目とあわせて受講することで、理解がより深まります。				

H146	意思決定論	担当教員	長瀬 勝彦	前期・火３	2 単位

①授業方針・テーマ	人間の意思決定について，行動意思決定論に立脚して講ずる。意思決定とは自分の将来の行動について複数の選択肢からひとつを選び取る行為である。個人的な意思決定には，食堂で料理の注文を決めるような日常の意思決定もあれば，進学や就職，転職，結婚など人生の一大事の意思決定もある。企業などの組織の中では，経営者をはじめとするすべての構成員が職務上のさまざまな意思決定を下している。この講義では，人間の意思決定が何に影響を受けてどのようなプロセスでおこなわれているかを議論する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人間の意思決定のありかたは，一般人が思い描いているものとはだいぶ異なっている。人間の意思決定にはさまざまな癖があり，それぞれに「○○ヒューリスティック」や「△△バイアス」といった名称が付いている。この講義では数多くのバイアスとヒューリスティックを議論するので、それらの意味内容を習得することなどを通じて，人間の意思決定の特徴について深く理解することがこの講義の目標である。
③授業計画・内容	【授業計画・内容（主な項目）】 1. イントロダクション 2. 「成功要因」の神話と現実 3. 規範的アプローチ 4. ヒューリスティックとバイアス 5. データの収集と分析 6. 確率認知 7. 未来予測と投資の意思決定 8. 市場への参入の意思決定 9. Ｍ＆Ａの意思決定 10. 市場からの撤退の意思決定 11. 事業売却の意思決定 12. 利己心 13. 公正と感情 14. 経験とアナロジー 15. まとめと期末試験 【授業方法】 授業は主として講義形式であるが，一方向の講義ではなく受講生と対話をしながら進行する。受講生は単に授業の内容をノートにとるだけでなく，自分の頭で考え積極的に発言することが期待される。
④授業外学習	原則として毎回の授業に復習課題がある。教科書や配付資料，授業でとったノート等を参照しながらそれを解くことが要請される。
⑤テキスト・参考書等	教科書として『意思決定のマネジメント』(長瀬勝彦[著],東洋経済新報社,2008 年)(2,808 円)を使用する。 参考書は『行動意思決定論』(ベイザーマン＆ムーア[著],長瀬勝彦[訳],白桃書房,2011 年)(4,104 円)『あなたがお金で損をする本当の理由』(長瀬勝彦[著],日本経済新聞社,2010 年)(720 円)，その他随時指示する。 随時 kibaco 経由で資料を配布する。
⑥成績評価方法	定期試験が主であるが，授業期間中に課題提出等を求めた場合はそれも加味する。なお定期試験の出題範囲は授業の内容すべてと教科書の全範囲である。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	原則として火曜１限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。 メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】 意思決定に関する心理をより深く探求する科目に「経営学コース特別講義（経営心理）」がある（ただし毎年開講される科目ではない）。また，本科目は行動意思決定論に立脚しているが，ゲーム理論などの経済学や経営科学の諸科目は規範的アプローチで意思決定を議論している。

H402	生産物流システム*	担当教員	渡邉　一衛 ＊	前期・月５	2 単位
①授業方針・テーマ	モノづくりとその間を結ぶ物流システムにおいて、効率的な生産を行い、消費者に届けるためにはシステムにあるムリ・ムダ・ムラをなくすことが重要である。そのために様々な管理技術が利用されている。本講座では生産物流システムとそこで用いられる管理技術について知り、その適用方法を理解することをねらいとする。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	①生産物流システムの全体像を知り、そこにある課題について知る。②モノづくりを中心とした企業や組織で行われている管理技術について理解する。③与えられた問題に対して管理技術を適用し、その解を導けるようになることを目的とする。				
③授業計画・内容 授業方法	１）生産システム・物流システムの概要、システムにおける課題 ２）管理技術とは、管理技術の役割、問題解決の基本ステップ、PDCA サイクル ３）制約条件と評価尺度、分析的アプローチと設計的アプローチ ４）オペレーションズリサーチの考え方、生産量の決定方法（線形計画法） ５）投資計画の考え方、投資配分の決定方法（動的計画法） ６）経済性工学の考え方１（独立案、排反案からの選択） ７）経済性工学の考え方２（混合案からの選択と投資配分の問題） ８）モノの流れの分析、在庫量とリードタイムの関係、流動数分析 ９）発注計画の考え方、最適発注方策、需要変動のもとでの発注計画 10）品質管理の考え方、データの重要性、統計的な分析 11）QC7 つ道具とその使い方１［パレート図、特性要因図、層別、グラフ］ 12）QC7 つ道具とその使い方２［チェックリスト、ヒストグラム、散布図、管理図］ 13）インダストリアルエンジニアリングの考え方、分析手法の概要 14）工程分析とその使い方 15）ものこと分析とその使い方 16）授業のまとめ 以上の項目について 14 回で行い 15 回目に期末試験を行う。 【授業方法】主に講義を行い、その内容に対して演習を行いながら理解を深めることとしたい。また、まず課題を与え自分で考えて解を導く問題も含める。提出した課題に対してその次の講義で提出された課題の履修生の解答例を配布して解説を行う。さらに、1 回程度レポートを課す予定である。				
④授業外学習	予習より復習に重点を置く。当日提出した講義の内容について復習を行い、演習課題を再度よく確かめておくこと。また、配布された解答例と自分の解答を比較し、不足している部分やもっと工夫しておけばよかった点などを自主的に把握して次の課題の解答に反映していくことを心がけてほしい。				
⑤テキスト・参考書等	毎回資料を配布する。 参考書：渡邉一衛監修、中央職業能力開発協会編「ビジネスキャリア検定試験標準テキスト　生産管理」社会保険研究所発売 2016 年 9 月発行 2700 円+税				
⑥成績評価方法	演習点（ほぼ毎回授業の最後に演習を行うため欠席すると点数が入らない）、レポート点（以上で 50%）および期末試験の点数（50%）を合計した点で評価する。 期末試験に関しては、到達目標を判断するために、授業で学んだ管理技術を用いて解を求めることができることを確認する問題とする。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	【オフィスアワー】原則として授業終了後とする。また、メールによる質問も受け付ける。 【連絡先】watanabe@st.seikei.ac.jp				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】特に必要な予備知識はない。				

■自然・文化ツーリズムコース専門教育科目

K377	観光関連法規概説	担当教員	戸崎　肇 *、清水　哲夫	前期･木2	2 単位
①授業方針・テーマ	観光関連法規が、現在の日本の観光政策、観光産業、そして旅行者の観光行動等にどのような影響を及ぼしているのか、あるいはどのような課題を抱えているのかを体系的に学ぶ。 また一部の講義に関しては、観光行政の第一線で活躍する若手官僚から、日本の観光が直面する問題解決のために、法律改正を含めていかなる取組みをしようとしているのかをレクチャーしていただく。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本の観光のダイナミックな動きと諸課題を学ぶとともに、行政の現場の状況などを含めて体系的に観光関連法規について習得する。				
③授業計画・内容 授業方法	１　オリエンテーション ２　観光関連法規の体系 ３　観光立国推進基本法、観光立国推進基本計画（１） ４　観光立国推進基本法、観光立国推進基本計画（２） ５　旅行業法（１） ６　旅行業法（２） ７　旅行業に関するケーススタディ ８　国家戦略特区 ９　旅館業法・「民泊新法」 １０観光圏整備法 １１景観法 １２歴史まちづくり法 １３休暇関連法 １４他の観光関連法規 １５まとめと試験 [授業方法]講義とディスカッション				
④授業外学習	観光政策の動向について新聞や雑誌などを通じて情報を得るよう努力すること。 場合によっては関連施設の見学を行う。				
⑤テキスト・参考書等	参考書：戸崎『観光立国論』、現代書館、2017 年				
⑥成績評価方法	平常点 50%、試験・レポート 50%				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。(授業内で連絡先をお伝えします。)				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	[他の授業科目との関連性] 旅行産業論、宿泊産業論、ホスピタリティ産業の経営戦略論				

K234	コミュニケーション学	担当教員	浅井　亜紀子 *、菊地 俊夫	前期･月２	2 単位
①授業方針・テーマ	グローバリゼーションの進行や IT 技術の革新により、文化や社会的背景を異にする人とコミュニケーションをとる機会が飛躍的に増大している一方、人とのつながりが希薄化する状況も生まれてきた。互いの考えや気持ちをいかに伝え、理解するのか。本授業は、コミュニケーションのメカニズムを理論的に理解するとともに、エクササイズを通じて、対人、集団、異文化など具体的状況で活用できるコミュニケーション能力の習得をめざす。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	理論の学習と、実際のエクササイズを通して、コミュニケーションに対する苦手意識を克服し、積極的に自己表現できる能力を身につける。具体的な状況（対人、集団、パブリック）での自分自身のコミュニケーションの能力の得意、不得意に気づく。コミュニケーションを発信するだけでなく、聴く力を習得する。自分が集団の中で、果たすことのできる役割とそれに必要なスキルを知り、自分がより効果的に動くための課題を見出す。				
③授業計画・内容 授業方法	・第 1 回　コミュニケーションの基礎概念 ・第 2 回　コミュニケーションの定義と特徴 ・第 3 回　コミュニケーションの認知プロセス ・第 4 回　コミュニケーションと価値観 ・第 5 回　ステレオタイプとコミュニケーション ・第 6 回　言語コミュニケーション ・第 7 回　非言語コミュニケーション ・第 8 回　集団コミュニケーション：集団での役割 ・第 10 回　集団における意思決定の方法 ・第 11 回　集団における意思決定とコミュニケーション ・第 12 回　葛藤とストラテジー（1） ・第 13 回　葛藤とストラテジー（2） ・第 14 回　リーダーシップスタイル ・第 15 回　リーダーシップとコミュニケーション　まとめ				
④授業外学習	事前に指定した文献を読んで予習すること。				
⑤テキスト・参考書等	テキスト：浅井亜紀子「集団で自分を活かす～自己を磨く 15 のレッスン～」実教出版				
⑥成績評価方法	授業コメント 20% レポート 80%（レポート①25%　レポート②25%　レポート③30%　）				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	授業中ないし授業後に質問を受け付ける。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	「ECO-TOP プログラム」の必修科目の１つである。 オフィスアワーは原則として月曜４限。				

K275	観光資源論	担当教員	直井 岳人	前期・火2	2単位

①授業方針・テーマ	観光資源の特性と成り立ちに関して、観光資源の形態、その魅力の評価、観光者のまなざしの生成の観点から検討する。観光振興と資源保存の双方に資する、観光資源と観光者の適切なブリッジングを行うための素養を修得するのが本講義の目的である。講義内容は、主に英語圏の観光研究の理論、概念、方法論に基づくが、一部、工学分野の知見も組み入れる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・観光資源を形態上の特性、潜在的観光者の特性に従って分類できる ・資源が観光対象化するしくみを説明できる ・観光資源の特性と評価側面の関係を分析できる
③授業計画・内容 授業方法	１．イントロダクション ２．観光現象の成り立ち ３．観光資源の分類（形態上の分類） ４．観光資源の分類（マネジメント上の分類） ５．人工的資源 ６．人工的資源（ケース） ７．自然資源 ８．自然資源（ケース） ９．　観光資源におけるキャリングキャパシティ １０．観光資源の魅力評価の側面 １１．観光資源の魅力評価（実践） １２．　観光資源の本物性の変容 １３．　オータナティブツーリズムにおける観光資源 １４．　観光のまなざしの生成 １５．まとめ 授業方法：講義形式で行う。講義の順番は前後することがある。ワーク（受講者同士のインタビューと結果の分析）を数回行う予定である。
④授業外学習	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味などを理解しておくこと。また、ワークの実施に際しては事前の準備が必要となる。
⑤テキスト・参考書等	テキストは指定しないが、参考文献を講義資料中に示す。
⑥成績評価方法	期末レポート（80%）、毎講義後のレスポンスカートの内容（20%）を基に評価する。レポートでは、講義中のワークの結果を基にした考察を求め、ワークの手順と結果を適切に説明しているか、講義及び参考資料を基にした根拠のある結果の解釈をしているか、以上を踏まえたうえで自分の意見を述べているかを評価項目とする。レスポンスカードでは、講義の内容を踏まえて自分の意見を述べているかを評価項目とする。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受付けるので、事前にメール（naoi-taketo@tmu.ac.jp）でアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

K282	観光地理学	担当教員	菊地　俊夫	不開講 （隔年開講予定）	2 単位
①授業方針・テーマ ②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標 ③授業計画・内容 授業方法 ④授業外学習 ⑤テキスト・参考書等 ⑥成績評価方法 ⑦質問受付方法（オフィスアワー等） ⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	偶数年度開講のため、今年度は不開講				

K283	観光地誌学	担当教員	菊地　俊夫	後期・月３	2 単位
①授業方針・テーマ	地誌学の基本的な考え方と方法論を学ぶと共に、地誌学の方法を用いた地域の見方・考え方を身につける。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では、日本を中心に事例地域を設定し、静態地誌と観光を主体とする動態地誌、および比較地誌から世界や日本の諸地域の性格を解明し、地誌学の方法論を習得する。また、地誌学の理解を深めるために１回程度の野外巡検を実施する。				
③授業計画・内容 授業方法	1.地誌学の目的と方法–静態地誌と動態地誌、および比較地誌– 2.州大陸レベルの静態地誌–オーストラリアの静態地誌– 3.州大陸レベルの動態地誌–オーストラリア観光の動態地誌– 4.国家レベルの静態地誌–ニュージーランドの静態地誌– 5.国家レベルの動態地誌–ニュージーランド観光の動態地誌– 6.巡検：国分寺崖線を歩く、見る–観光と自然の関わりを考える– 7.地域レベルの静態地誌–パリ大都市圏の静態地誌– 8.地域レベルの動態地誌–パリ観光の動態地誌– 9.日本の動態地誌–日本の森林環境から地域を読み解く– 10.日本の小地域における動態地誌–軽井沢の動態地誌– 11.日本の観光地域の比較地誌（その１）–日本の温泉地域の比較地誌– 12.日本の観光地域の比較地誌（その２）–日本のスキー場集落の比較地誌（総論編）– 13.日本の観光地誌の比較地誌（その３）–日本のスキー場集落の比較地誌静態地誌（各論編）– 14.静態地誌と動態地誌、および比較地誌の TPO–3 つの方法論をどのように使い分けるか 15.試験と解説				
④授業外学習	講義の予習復習として以下の書籍は購読すること。 菊地俊夫編著（2008）:「観光を学ぶ–楽しむことからはじまる観光学–」二宮書店. 菊地俊夫編著（2011）:「世界地誌シリーズ　日本」朝倉書店. 菊地俊夫・小田宏信（2014）:「世界地誌シリーズ　オセアニア・東南アジア」朝倉書店				
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に指定しない。 講義に必要な資料は適宜配布し、参考文献は必要に応じて紹介する。				
⑥成績評価方法	試験とレポートで評価する。 ただし、出席が 80%に満たないものは試験を受けることができない。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは水曜日 3 時限。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	奇数年度開講のため、2019 年度は開講する。				

■観光経営副専攻コース専門教育科目

N001	サービス・マネジメント	担当教員	未定	後期・木4	2 単位

①授業方針・テーマ	サービス・マーケティングは，サービスを核とする商品のマーケティングであり、サービス・マネジメントはサービスを商品とする企業や共同体の経営である。両者は対象領域において多少異なっているが、大部分重なりあっている。本講義では両方を取り扱う。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	サービス・マネジメントに関する理論や実際の応用例を学び、サービス提供を中心とするビジネスが、サービス自体の特徴を踏まえて、どのような経営が可能かを論じる力をつける。観光産業の大部分はサービス提供を中心とするビジネスであり、観光産業を分析する上での基礎理論を習得することができる。
③授業計画・内容 授業方法	1. イントロダクション 本講義の概略，進め方，評価方法などの説明。および「サービス」とは何かについての説明。 2. サービス経済化と社会 日本を始め経済先進国のほとんどの経済はサービス化経済の様相を呈している。そうした現状の説明と，現在進行しているサービス経済化の主要な変化の一部である製造業のサービス産業化の傾向についても言及する。 3. サービスの本質と特徴 サービスとはいったい何であり，それはモノ製品と対比した場合，どのような特徴を持つかを明らかにする。サービス・ドミナント・ロジックを重要なアプローチとして取り上げる。 4. 商品としてのサービス サービスそのものと顧客接点にあるサービス商品の違いと関係を明らかにする。 5. ソリューション（モノとサービスの融合） 実際に顧客に提供されるサービス商品は，サービスと物的要素の混合したものである。それは顧客に対するトータルなソリューションの特徴を備えていなければならないことを説明する。 6. サービス・マネジメント・システム（I） 現実のサービス・マネジメントに必要なサービス・システムの要素を説明する。 7. サービス・マネジメント・システム（II）　前講の続。 8. サービスの分類 サービスの本質は価値創造的な活動であるためさまざまの分類が可能だが， 各分類を紹介すると共に，そのマネジメント的なインプリケーションも検討する。 9. サービス品質 サービスの品質とモノ製品の品質評価の対比、および、サービス品質の評価の手法などについて説明。 10. 顧客満足 サービス消費の一つの重要なアウトプットである顧客満足（CS）について検討する。その構造、測定方法など。 11. 顧客価値 サービス商品の顧客価値の特徴を明らかにする。 12. サービス・プロフィット・チェーン 企業活動は最終的には一定の利益を創出しなければならないが，サービス・システムがどのような構造とダイナミックスによって利益を生み出していくかについて検討する。 13. サービス・マーケティング･ミックス 製品・立地・価格・プロモーションの４Ｐ、および、人材・過程・物的要素の３Ｐについて説明。 14. サービス・イノベーション 企業は外部環境の適応のために，新しいサービス商品を次々に生み出すことを求められているが，革新的なサービス商品を開発するにはどんな視点からどのような要素を取り上げたらよいかを検討する。 15. まとめ サービス・マーケティング全般についての疑問に応え、残された問題、新しい方向などについて議論。 ・授業方法　講義を主とするが、その他アクティブ・ラーニングの方法として、新聞のコラムでサービス・マネジメントについて、テーマごとにまとめてある記事のコピーを渡し、予め読んで理解させ、各回の授業の最初にどのような内容が書いてあったかを学生に発表させる。発表に基づいてディスカッションをし、学生名を記録し、AT への参加度として評価に加点する。
④授業外学習	参考書を事前に読んでおくことを奨める。 各学生が自分達で経験したサービスについて優れた品質を示した事例をレポートにまとめる。 その際、学習した理論をつかって、分析することを重視する。
⑤テキスト・参考書等	近藤隆雄著『サービス・イノベーションの理論と方法』2012 年　生産性出版
⑥成績評価方法	試験及びレポート、平常点・授業態度により評価
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定していないが、直接質問したい場合は随時受付ける。事前にメールでアポイントメントを取ること。（授業内で連絡先を伝える。）
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	サービス・マネジメントは、観光・旅行分野における理論の基礎をなす学問であり、その意味で、当該分野の研究に進む学生は最初に受講することがのぞましい入門領域である。

N002	ホスピタリティ産業の経営戦略論	担当教員	日原 勝也、戸崎 肇 ＊	後期･木3	2 単位

①授業方針・テーマ	ホスピタリティ産業のもつ特性を理解し、その上で、当該分野で成功を収めていくための経営戦略の立案、実行を、演習などを通じて実践的に学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ホスピタリティ産業とはどのようなものなのかを理解し、これから目指していくべき社会の方向性の中で、それがどのように位置付けられるのかを考える。そうした取り組みの中で、社会のあり方を多面的に、かつ深くとらえる観点を身に着ける。また、経営戦略を策定するために必要となる基本的なマーケティング手法などを習得することを目指す。
③授業計画・内容 授業方法	1. イントロダクション：なぜ今、ホスピタリティ産業について考えることが重要なのかを考える。 2. ホスピタリティ産業の定義づけと、その一般的特質の把握 3. SWOT 分析など、マーケティング・ツールの紹介 4.「観光」から見たホスピタリティ分析の視点の整理 5. 旅行産業とホスピタリティ：事例分析（講義と演習） 6. 前講の演習結果の発表と討議 7. 宿泊産業とホスピタリティ：事例分析（講義と演習） 8. 前講の演習結果の発表と討議 9. 飲食産業とホスピタリティ：事例分析（講義と演習） 10. 前講の演習結果の発表と討議 11. ホスピタリティに関わる人材育成と人的管理：TDL などの事例分析（講義と演習） 12. 前講の演習結果の発表と討議 13. 国際化とホスピタリティ（概説） 14. 国際化におけるホスピタリティのあり方についてのディスカッション 15. まとめと試験 [授業方法]主に講義とグループワークに分けて実施する。講義では基本的な知識、概念等について解説を行った後、具体的事例に基づいた分析をグループワークとして行う。そしてその結果を発表し、ディスカッションする。
④授業外学習	事前に資料等を kibaco に掲載する場合には、その資料についてあらかじめ学習してから、授業に臨むこと。講義で取り上げられた知識、概念等に対する理解を深めるよう、テキスト、参考書などを読んでいくこと。
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に指定しない。講義に必要な資料は適宜配布する。 参考書：戸崎『観光立国論』、現代書館、2017 年
⑥成績評価方法	平常点・演習への貢献度：75%、試験：25%。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	＊オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付ける（受付の方法については授業時に伝達する。）
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	[他の授業科目との関連性]　旅行産業論、宿泊産業論、観光関連法規概説

N003	ホスピタリティ産業の財務管理論	担当教員	長谷川惠一 ＊、清水哲夫	後期･木2	2 単位

①授業方針・テーマ	宿泊業・飲食業といったホスピタリティ産業の事例を中心に、企業における資金の調達や運用・管理、投資の意思決定について学ぶ。とりわけホスピタリティ産業の事業特性と、それがもたらす財務管理の特徴について理解を深める。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ホスピタリティ産業における財務管理の基礎となる会計学の知識を習得するとともに、その知識にもとづき、ホスピタリティ産業における利益管理、資金管理のために必要な分析・評価の手法の基礎概念を理解する。
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1. ホスピタリティ産業における業務と部門 2. 貸借対照表の基本 3. 損益計算書の基本 4. 会計システムの基本構造　その１ 5. 会計システムの基本構造　その２ 6. 会計システムの基本構造　その３ 7. 会計システムの基本構造　その４ 8. 貸借対照表の構造 9. 損益計算書の構造 10. 財務会計と管理会計 11. ホスピタリティ産業における管理会計情報　その１ 12. ホスピタリティ産業における管理会計情報　その２ 13. 宿泊施設の統一会計報告様式（ＵＳＡＬＩ）その１ 14. 宿泊施設の統一会計報告様式（ＵＳＡＬＩ）その２ 15. まとめと試験 【授業方法】講義形式で説明したのち、演習形式で練習問題を解き理解度を確認する。
④授業外学習	演習形式での練習問題を復習課題として課すことがある。また、会計システムの基本構造について、冬休みにレポートを課し、レポートの結果を成績に反映させる。
⑤テキスト・参考書等	テキスト：印刷教材を適宜配付する。 参考書： 徳江順一郎編著『サービス＆ホスピタリティ・マネジメント』産業能率大学出版部、2011 年。 早稲田大学商学部監修，長谷川惠一編集，2016,『観光立国日本への提言–インバウンド・ビジネスのチャンスをとらえる–』成文堂。 清水孝・長谷川惠一・奥村雅史『入門原価計算』第 2 版、中央経済社、2004 年。 小林啓孝・伊藤嘉博・清水孝・長谷川惠一『スタンダード管理会計』東洋経済新報社、2009 年。
⑥成績評価方法	試験を 60%、冬季休業期間中に課すレポートを 40%とする。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付ける（受付の方法については授業時に伝達する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の科目との関連性】 １）特別な知識を必要としない入門講座であり、初歩的な事項から段階的に説明していくので、ホスピタリティ産業に興味のある学生であれば履修できる。なお、毎回の授業内容を着実に理解していかないと途中で分からなくなるため、極力授業に欠席しないこと。 ２）ホスピタリティ産業における様々なビジネスの事例について必要に応じて触れ、会計の概念や手法がどのように用いられているかについても解説する。 【その他】 １）計算問題を多く扱うので、履修生は電卓を持参すること。携帯電話等の電卓機能は試験時においては使用できないので、８桁程度の計算ができるものを準備すること。 ２）冬季休業期間中のレポートは、成績評価のうち 40%の割合を占めるので、必ず提出すること。

N004	宿泊産業論	担当教員	清水　哲夫、戸崎　肇 ＊	前期・水３	2 単位

①授業方針・テーマ	宿泊産業の全貌を深く理解できるよう、ホテル、旅館等の宿泊産業の発展の歴史、産業特性、現状と今後の展望等について、各界の専門家及び経営トップが総合的・俯瞰的に講義する。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	宿泊産業のサービス産業としての特性、経営課題とグローバル化、地域との関係について基本的な理解を得る。
③授業計画・内容 授業方法	1. オリエンテーション 2. 観光に関する基礎知識編（観光政策、観光経済など） 3. ホテル、旅館の基礎知識編（経営、業界、法税制など） 4. サービス・マネジメントの基礎 5. 旅館産業発達史 6. ホテル産業発達史 7. ホテル経営論（1） 8. ホテル経営論（2） 9. 日本のホテルの取組 10. 外資系ホテルの取組 11. 旅館経営論 12. 旅館と地域経営（1） 13. 旅館と地域経営（2） 14. ネットビジネスと宿泊業 15. まとめと試験 [授業方法]基本的知識、概念について講義で解説し、それが実際にどのように現場で実践されているかについて、宿泊産業界からエキスパートを招き、講演を行っていただくことで理解を深める。
④授業外学習	日頃から新聞などを通じて宿泊産業の動向に関心を持って調べておくこと。 日頃からホテルや旅館、民泊など、宿泊産業に係るメディアの報道に関心を持ち、またそれに関係する文献を読むこと。
⑤テキスト・参考書等	講義を行っていく中で適宜紹介する。
⑥成績評価方法	平常点 50%、試験・レポート 50%
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	＊オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付ける（受付の方法については授業時に伝達する。）
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特別な予備知識は必要としない。専門を問わず、興味があれば受講できる。

N006	MICE	担当教員	清水　哲夫、戸崎　肇 ＊	後期・水３	2 単位
①授業方針・テーマ	観光立国推進において重要戦略分野とされている Meeting, Incentive tour, Convention, Exhibition（ＭＩ－ＣＥ）の各々について、政策の動向、事業主体の取組状況等について理論・実務の両面から立体的に理解する。実社会に触れる機会となることを目指す。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	MICE の実務に従事する際の基礎が構築できることを目指す				
③授業計画・内容 授業方法	1. ガイダンス：講座の狙い、進め方など 2. MICE 概論①：ＭとＩの概念、取り組み主体、業界構図、事例など 3. MICE 概論②：ＣとＥの概念、取り組み主体、業界構図、事例など 4. MICE 概論③：MICE に関する国際競争、先進国の取組み 5. 日本における MICE 戦略（１）：観光庁の取組み 6. 自治体における MICE 戦略（１）：グローバル MICE 戦略都市の取組み① 7. 日本における MICE 戦略（２）：JNTO の取組み 8. 自治体における MICE 戦略（２）：グローバル MICE 戦略都市の取組み② 9. コンベンション（１）：コンベンション会社の仕事 10. コンベンション（２）：IR 11. コンベンション（３）：日本のコンベンション施設運営 12. 展示ビジネス（１）展示ビジネス概論 13. 展示ビジネス（２）展示ビジネスの実態と期待される成果 14. 展示ビジネス：展示ビジネス事業者の仕事 15. まとめと試験 [授業方法]基本的知識、概念について講義で解説し、それが実際にどのように現場で実践されているかについて、MICE に携わるエキスパートを招き、講演を行っていただくことで理解を深める。				
④授業外学習	MICE、IR について事前に自分でも調べて学習しておくこと。 日頃から MICE に係るメディアの報道に関心を持ち、また関連文献を読むこと。				
⑤テキスト・参考書等	講義を行っていく中で適宜紹介する。				
⑥成績評価方法	平常点 50%、試験・レポート 50%				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	＊オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付ける（受付の方法については授業時に伝達する。）				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	特別な予備知識は必要としない。専門を問わず、興味があれば受講できる。				

N007	㋕インターンシップ	担当教員	阿曽　真紀子 ＊、清水　哲夫	夏季集中	2 単位

①授業方針・テーマ	インターンシップは、夏季休業期間に各自の希望する職種の民間企業、行政機関、NPO 等を選定し、観光にかかわる実務を体験するものである。この実習によって、講義では得られにくい広い素養を身につけるとともに、観光にかかわる職能や技術を広く理解することを目的とする。なお、前期卒業を予定している学生は、特記事項の内容に特に注意すること。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・観光関連産業の実務を理解することができる。 ・観光関連産業で求められる資質を理解することができる。
③授業計画・内容 授業方法	[授業方法] 下記のスケジュールに沿って事前学習（企業研究）、企業ガイダンス、職場実習（実務体験）、実習報告会を行う。 これは一般社団法人 日本経済団体連合会の協力を得て実施する、3 年生のみを対象とするプログラムである。2019 年度の担当教員は阿曽・清水である。以下、実施予定の概要を示すが、詳細は、ガイダンスで説明する。また、都市環境学部の教務掲示板に掲示を出すので、そちらも必ず参照のこと。 [授業計画・内容] 1. ガイダンス（4 月上旬を予定） ガイダンスに参加必須（やむを得ない事情で参加できない希望者は事前に科目担当教員に連絡） 2. 指定科目カード提出（ガイダンス時に配布。指定科目提出期限までに担当教員に提出） 以下の詳細は、ガイダンスで説明する。 3. 応募（4 月中旬を予定） 4. 選抜者掲示（4 月下旬を予定） 5. 選抜者ガイダンス（5 月上旬を予定） 6. 企業ガイダンス（6 月上旬～下旬を予定） 7. 企業研究（6 月下旬を予定） 8. 実習先希望書提出（6 月下旬を予定） 9. 実習先発表（6 月下旬を予定） 10. 実習先企業と派遣学生の面談（7 月中を予定） 11. 実習に向けての発表会（7 月上旬を予定） 12. 事前レポート提出（7 月中旬から下旬を予定） 13. 実務体験（夏季休暇中の、派遣先企業・団体の休日を除く 7～10 日程度） 14. 実習報告書提出（実習終了後 2 週間以内） 15. 実習報告会（11 月上旬を予定）
④授業外学習	インターンシップ先に関連する情報を各自で十分に収集しておくこと。
⑤テキスト・参考書等	適宜参考文献を紹介する。
⑥成績評価方法	事前レポート（20%）、実習報告書（30%）、及び受け入れ企業・団体の評価レポート（30%）、実習報告会（20%）の内容により評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付ける（受付の方法については授業時に伝達する。）
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	2019 年度開始前に都市環境学部の教務掲示板に掲示を出すので、そちらも必ず参照のこと。詳細はガイダンス（参加必須）で説明する。 ・これは夏季集中開講科目であるが、成績登録は 2019 年度の後期になされるので充分に注意すること。 ・インターンシップは夏季休暇中の 7～10 日間程度実施する（土日祝日を含む可能性あり）。 ・4 月のガイダンス後に提出する応募用紙の記載内容（ガイダンスで説明する）を基に選抜を行う。 ・選抜者の学修番号は都市環境学部の教務掲示板にて掲示する。 ・選抜者のこの科目の履修登録については、科目担当者側で配慮する（ガイダンスで説明する）。 ・指定の損害賠償保険への加入が必須となる（ガイダンスで説明する）。 ・履修者の希望は考慮するが、希望する実習先に配属されるとは限らない。 ・他の実習科目を履修する場合は、実施時期が重なる可能性があることに留意すること。 ・この科目と、都市環境学部 自然・文化ツーリズムコースの「インターンシップⅠ」との重複履修は認めない。 [他の授業科目との関連性] 学生サポートセンターキャリア支援課のビジネスマナー講習の受講を推奨する。

N008	㋕海外宿泊旅行サービス研究	担当教員	阿曽　真紀子 *、清水　哲夫	夏季集中	2 単位
①授業方針・テーマ	夏休み等を利用した現地滞在１週間程度以上の海外旅行におけるホテルやテーマパーク、交通機関等でホスピタリティあるいはサービスの経験した中で、日本的な「もてなし」との比較や差異を検討したレポートすることで、本科目の単位認定を行なう。短期語学留学・研修 に出かけた場合でも、帰国後、レポートを提出すれば、単位認定される。履修希望者は、本科目の履修希望者を対象にした年度初めの履修ガイダンスに必ず出席し、旅行計画書ならびにレポート作成のポイント・注意点について授業担当者から説明を受けなければならない。 レポート提出後に報告会を実施する予定である。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	海外旅行に出かけ、日本とは異なる文化・慣習を持つ人たちから受けた経験を日本的な「もてなし」との違いから、改めて日本的な「もてなし」の本質を考えることにより、国際社会の一員として活躍するためのヒントを得ることができる。				
③授業計画・内容 授業方法	[授業計画・内容] ガイダンス時に説明する。 [授業方法] ホスピタリティあるいはサービス、日本的な「もてなし」の事例で基本的知識、概念について数回の講義で解説。 海外旅行後には報告会を行う。				
④授業外学習	関連する情報を収集し、各自で学習をすることを推奨する。				
⑤テキスト・参考書等	適宜参考文献を紹介する。				
⑥成績評価方法	旅行計画書と提出レポートおよび報告会の内容で評価する。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付ける（受付の方法については授業時に伝達する。）				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・４月中に履修ガイダンスを２回行うので、履修希望者はいずれかの回に必ず出席のこと。 ・「観光経営副専攻コースの履修者」、及び「観光経営副専攻コースを履修する意思のある、2011 年度以降入学の全ての学部学生」を対象とする。 ・指定科目カードを、履修ガイダンス時に、授業担当者に提出すること。 ・出発前に、海外旅行保険に必ず加入すること。 ・これは集中Ｉ期開講科目であるが、成績登録は 2019 年度の後期になされるため、前期卒業を予定している学生は充分に注意すること。 [他の授業科目との関連性] 宿泊産業論の受講を推奨する。				

2020 年度開講予定の 2019 年度不開講科目（観光経営副専攻コース専門教育科目）

N005	旅行産業論	担当教員	未定	不開講 （隔年開講予定）	2 単位
授業方針・テーマ	身近な存在である旅行産業は、少子高齢化、経済の低成長などの環境変化の中で、大きく変化しようとしている。その旅行産業の現状、旅行サービスの実態、経営課題、グローバル化などの今後の展望を学ぶ。その際、業界関係者から直接話も伺う。				

観光マネジメント副専攻コース

シ ラ バ ス

観光マネジメント副専攻コースの概要

副専攻コースとは

副専攻コースは、学生が、自分が所属し専攻する学科（以下「主専攻」という）とは異なる特定の専門領域について体系的に学ぶことにより、複数の領域にわたる複合的な専門知識を修得し、視野を拡大することを目的とする履修コースである。
「観光マネジメント副専攻コース」は、主たる担当部局である都市環境学部観光科学科の協力を得て運営されている

観光マネジメント副専攻コースのコンセプト

観光マネジメント副専攻コースは、多様な専門をバックグラウンドとして持ちながら、地域の観光振興を主導できる、バランス感覚に優れ多様な知識を有するリーダー候補を育成することを目的としている。そのために、観光産業の経営スキルのみならず、都市地域や自然地域での観光資源マネジメント技術に関する知識までを総合的に学習する。

対象とする学生

2018（平成 30）年度以降入学の学部学生のうち、都市環境学部観光科学科所属学生を除くすべての学部学生を対象とする。とりわけ、将来、観光産業や観光行政の幹部、観光関連分野での地域リーダーとして活躍しようとする学生には、本副専攻コースの履修を推奨する。

観光マネジメント副専攻コースの履修方法

観光マネジメント副専攻コース履修の申出

観光マネジメント副専攻コースの履修を希望する学生は､2年次又は3年次の所定の履修申請期間に｢副専攻コース履修申出書」に必要事項を記入し、都市環境学部教務係（9号館2階）に提出する。

なお、コース履修を希望するものは、観光マネジメント副専攻コース履修ガイダンスに、3年次までに参加し、履修方法について理解しておくことが望ましい。

観光マネジメント副専攻コースの履修科目と修了認定要件

観光マネジメント副専攻コースの修了認定要件は、次頁の表に挙げる全学共通科目、観光科学科専門教育科目、および観光マネジメント副専攻コース専門教育科目について、科目一覧の分野区分ごとの要件に従い、26単位以上（基礎科目群のうち全学必修の「情報リテラシー実践Ⅰ」「実践英語Ⅰ」をあわせて30単位以上）履修することである。

本副専攻コースに含まれる全学共通科目の単位を修得した場合、主専攻の卒業要件ならびに、本副専攻の修了認定科目に算入する事ができる。また、本副専攻コースの専門科目は、原則として、各自の主専攻の卒業要件単位に含める事ができる。（詳細は、主専攻の卒業認定要件を参照すること。）

主専攻となる学科を卒業し、かつ上記の修了認定要件を満たした者には、観光マネジメント副専攻コースを修了したことを認定するとともに、卒業時には副専攻コース修了証書が授与される。

観光マネジメント副専攻コースの各科目の履修方法

観光マネジメント副専攻コースの科目を履修する際は、通常の方法により履修申請（登録）を行うこと。「副専攻コース履修申出書」を提出していない学生であっても、本副専攻コースが開講する個々の科目を受講することは可能であるが、興味のある学生は履修申請（登録）を行うことを推奨する。

観光マネジメント副専攻コースの掲示について

観光マネジメント副専攻コースの掲示については、インフォメーションギャラリーの都市環境学部掲示板等に留意すること。

履修科目一覧

分野	区分***	1－2 年次推奨（14 科目）	区分	3－4 年次推奨（10 科目）	要件	
観光基礎	教	観光科学概論			2 単位	合計 26 単位以上
産業	観	行動・経営科学概論	観	観光産業の実際	6 単位以上	
	教	ツーリズム産業論	観	ホスピタリティ産業の財務管理論**		
	観	ホスピタリティ産業の経営戦略論**	観	サービスマネジメント**		
理念・手法	観	観光経済学**	副	観光関連法規概説	4 単位以上	
	観	旅行者行動の心理学				
	観	観光マーケティング科学**				
地域社会	観	地域計画・マネジメント概論	観	観光地域史	4 単位以上	
	観	国土・インフラ計画と観光				
	観	観光まちづくり論				
自然環境	観	自然環境マネジメント概論Ⅰ	観	生態環境学	4 単位以上	
	観	自然環境マネジメント概論Ⅱ				
	観	生物資源学				
	観	観光地理学／観光地誌学（隔年）				
実習			副	観光ビジネス・ゼミナール*	4 単位以上	
			副	観光マネジメント・インターンシップ*		
			副	宿泊産業・ゼミナール*		
			副	宿泊旅行サービス研究*		

*「観光ビジネス・ゼミナール」は「観光マネジメント・インターンシップ」の事前に，「宿泊産業・ゼミナール」は「宿泊旅行サービス研究」の事前に必ず受講すること。「観光ビジネス・ゼミナール」と「宿泊産業・ゼミナール」の組み合わせは要件と認めない。

**事前履修推奨科目を設定する．科目一覧は以下の通り。

事前履修推奨科目一覧

分野	区分***	観光マネジメント副専攻科目	区分	事前履修推奨科目
産業	観	ホスピタリティ産業の経営戦略論	基盤	経営学入門
			経	経営組織論
			経	経営戦略論
	観	ホスピタリティ産業の財務管理論	基盤	会計学入門
			経	原価計算論
	観	サービスマネジメント	観	観光マーケティング科学
理念・手法	観	観光経済学	基盤	統計学
	観	観光マーケティング科学	経	マーケティング・マネジメント

***区分略号

「教」は教養科目群，「基盤」は基盤科目群，「観」は観光科学科専門科目，「経」は経済経営学科専門科目，

「副」は観光マネジメント副専攻コース提供科目

観光マネジメント副専攻コースの時間割

下に掲載する時間割は 2019 年度開講のものであるが、変更になる場合があるため、時間割及び授業案内（シラバス）、ＷＥＢシラバス、掲示なども必ず確認すること。

前期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
１限	［教］観光科学概論				
２限				［副］観光関連法規概説	
３限					［観］旅行者行動の心理学
４限	［観］自然環境マネジメント概論Ⅱ		［観］国土・インフラ計画と観光		
５限					

後期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
１限	［観］自然環境マネジメント概論Ⅰ		［観］観光マーケティング科学		
２限					［観］観光まちづくり論
３限	［観］観光地誌学	［観］生物資源学	［教］ツーリズム産業論	［観］ホスピタリティ産業の経営戦略論	
４限			［観］行動・経営科学概論		［観］地域計画・マネジメント概論
５限			［観］観光経済学		

※区分略号一覧

全学共通科目：

教：教養科目群　基盤：基盤科目群

専門教育科目：

観：観光科学科専門教育科目

副：観光マネジメント副専攻コース専門教育科目

■シラバス

以下には、専門教育科目のシラバスのみ掲載している。なお、これらの科目のシラバスは、全てＷＥＢシラバスでも確認することができる。その他の全学共通科目（基礎科目群、教養科目群、基盤科目群）はＷＥＢシラバス及び授業案内（シラバス）で確認すること。

■観光科学科専門教育科目

K0182	行動・経営科学概論	担当教員	直井　岳人、日原　勝也、 鈴木　祥平*	後期・水４	2 単位
①授業方針・テーマ	観光が地域に及ぼす影響には、ほとんどの場合、好影響と悪影響がある。人の心理・行動の観点から考えてもそれは同様であり、観光が長続きするためには、観光者の多様化するニーズに対応し、観光関連産業事業者にとっての利益を生みつつ、一般住民の過度のストレスを避けるという、観光する側とされる側の両方への配慮のあるマネジメントが求められる。この講義では、観光者心理・行動、経営学、経済学、情報学の観点から、そのような持続可能な観光の実現のために重要な、観光者や企業、地域住民など、観光に関わる多様なアクターの心理・行動を理解し、マネジメントに生かすための理論と方法を学ぶ。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	以下のため基本的な理論と方法の概要を理解する： ・訪問地環境、観光者心理と住民の心理の関係を理解する ・多様化する観光者のニーズに合った商品・サービス・経験を提供する ・情報を通じて観光者の行動に影響を与え、彼らの顕在化しにくい行動を理解する				
③授業計画・内容 授業方法	1. 観光マネジメントにおける観光者行動・心理の重要性 2. 観光者心理と訪問環境の関係：観光地化への納得感と違和感 3. 観光者心理と訪問環境の関係：観光地で感じる混雑感 4. 観光者心理と訪問環境の関係：住民の暮らしへの視線 5. 観光者と住民の関係：観光者に対する住民の諸感情 6. 観光ビジネスのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ:制度・仕組みのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ 7. 観光ビジネスのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ:観光分野の経営戦略 8. 観光ビジネスのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ:シェアリング・エコノミー 9. 観光ビジネスのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ:持続可能性に向けて 10. 情報化時代の観光者行動：訪問を誘発するしかけ 11. 情報化時代の観光者行動：多様化するニーズに応える観光情報サービス 12. 情報化時代の観光者行動：観光者の側が創り出す観光 13. 情報化時代の観光者行動：ソーシャルビッグデータを利用した観光者行動分析 14. まとめ 15. 試験・解説 授業方法：講義形式で行う。講義の順番は前後することがある。				
④授業外学習	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味などを理解しておくこと。				
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に指定しない。講義に必要な資料は適宜配布する。参考書・参考文献は必要に応じて紹介する。				
⑥成績評価方法	各回の授業内容に基づいて学期末に試験を実施し評価する。ただし、出席が 70%に満たないものは評価の対象としない。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に指定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメール（naoi-taketo@tmu.ac.jp）でアポイントメントを取ること。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	前期教養科目の「観光科学概論」と連続して履修することが望ましい。また、この科目に関連し、観光科学に関して幅広い知見を身につけるため、可能であれば、「自然環境マネジメント概論Ｉ」および「地域計画・マネジメント概論」を受講するよう勧める。				

K0521	ホスピタリティ産業の経営戦略論	担当教員	日原　勝也、戸崎　肇*	後期・木３	2 単位

①授業方針・テーマ	ホスピタリティ産業のもつ特性を理解し、その上で、当該分野で成功を収めていくための経営戦略の立案、実行を、演習などを通じて実践的に学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ホスピタリティ産業とはどのようなものなのかを理解し、これから目指していくべき社会の方向性の中で、それがどのように位置付けられるのかを考える。そうした取り組みの中で、社会のあり方を多面的に、かつ深くとらえる観点を身に着ける。また、経営戦略を策定するために必要となる基本的なマーケティング手法などを習得することを目指す。
③授業計画・内容 授業方法	1. イントロダクション：なぜ今、ホスピタリティ産業について考えることが重要なのかを考える。 2. ホスピタリティ産業の定義づけと、その一般的特質の把握 3. SWOT 分析など、マーケティング・ツールの紹介 4.「観光」から見たホスピタリティ分析の視点の整理 5. 旅行産業とホスピタリティ：事例分析（講義と演習） 6. 前講の演習結果の発表と討議 7. 宿泊産業とホスピタリティ：事例分析（講義と演習） 8. 前講の演習結果の発表と討議 9. 飲食産業とホスピタリティ：事例分析（講義と演習） 10. 前講の演習結果の発表と討議 11. ホスピタリティに関わる人材育成と人的管理：TDL などの事例分析（講義と演習） 12. 前講の演習結果の発表と討議 13. 国際化とホスピタリティ（概説） 14. 国際化におけるホスピタリティのあり方についてのディスカッション 15. まとめと試験 [授業方法]主に講義とグループワークに分けて実施する。講義では基本的な知識、概念等について解説を行った後、具体的事例に基づいた分析をグループワークとして行う。そしてその結果を発表し、ディスカッションする。
④授業外学習	事前に資料等を kibaco に掲載する場合には、その資料についてあらかじめ学習してから、授業に臨むこと。講義で取り上げられた知識、概念等に対する理解を深めるよう、テキスト、参考書などを読んでいくこと。
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に指定しない。講義に必要な資料は適宜配布する。 参考書：戸崎『観光立国論』、現代書館、2017 年
⑥成績評価方法	平常点・演習への貢献度：75%、試験：25%。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	＊オフィスアワーは特に設定しないが、直接質問したい場合は随時受け付ける（受付の方法については授業時に伝達する。）
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	[他の授業科目との関連性]　旅行産業論、宿泊産業論、観光関連法規概説

K0520	観光経済学	担当教員	日原　勝也　清水　哲夫	後期・水５	2単位
①授業方針・テーマ	観光分野における諸現象について、経済学のフレームにより、情報収集・整理、分析、計画、評価、改善等するために必要な理論的知見、手法について学習する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	以下の点について、関連する理論と分析手法を習得する。 ・観光現象を経済学の観点から理解、分析、評価等するため、市場、消費者、生産者、均衡と効率性などに関する基礎的理論を習得する。 ・観光分野の統計情報、国民経済計算、観光産業の波及効果の把握についての基礎理論、分析手法を学ぶ。 ・市場を介さない観光関連の諸現象について、ゲーム理論、契約理論他の理論的な枠組みの基礎と、分析の概要を学ぶ。				
③授業計画・内容 授業方法	スケジュール 1. ガイダンス・観光分野の経済学への誘い 2. 観光経済を理解するための数学基礎 3. 消費者理論 4. 生産者理論 5. 市場均衡と効率性　　【課題１】 6. 観光経済の循環構造(1)～産業連関分析の基礎 7. 観光経済の循環構造(2)～我が国の観光統計ラインナップと TSA の作成 8. 観光経済の循環構造(3)～観光産業の経済波及効果の把握方法【課題２】 9. 外部性と公共財 10. 独占・寡占 11. ゲーム理論① 12. ゲーム理論② 13. 契約理論　　【課題３】 14. 情報の経済学、行動経済学その他の関係理論 15. 最終試験				
④授業外学習	事前に資料等を kibaco に掲載する場合には、その資料についてあらかじめ学習してから、授業に臨むこと。				
⑤テキスト・参考書等	・テキスト 特に指定しない。(講義時に、適宜、資料を配布予定) ・参考書 マンキュー　経済学Ｉミクロ編（第３版）東洋経済新報社 2014 マンキュー　経済学 II マクロ編（第３版）東洋経済新報社 2012 神取道宏　ミクロ経済学の力 2014　日本評論社 伊藤秀史　契約の経済理論　2003　有斐閣				
⑥成績評価方法	課題１　15% 課題２　15% 課題３　15% 最終試験　55%				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	・オフィスアワー 特に指定しない。直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前に教員にメールでアポイントメントを取ること。hihara@tmu.ac.jp / t-sim@tmu.ac.jp				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	・他の授業との関連性 学部の関連講義（順次開講予定の「行動・経営科学概論」、「観光マーケティング科学」又は「サービスマネジメント」）において、観光分野に関連する、経営科学、マーケティング科学の基礎的知識を習得していることが望ましい。				

K0289	旅行者行動の心理学	担当教員	直井　岳人	前期・金３	2 単位

①授業方針・テーマ	観光者心理の観点から、観光者行動が生起する仕組みを理論的に学ぶ。特に、観光地と観光者を別個にのみ扱うのではなく、観光者動機（プッシュ）と観光地特性の知覚（プル）の枠組みに基づき、観光者心理の視点から見た彼らと観光目的地環境の相互関係に焦点を当てるのが本講義の特徴である。また、各テーマごとに主要概念の測定（質問）方法の概要について説明し、測定を体験してもらう。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	①観光者の動機と行動、観光地評価／イメージの類型を説明できる。 ②観光者が動機と観光地評価／イメージを簡易に測定できる。 ③観光者の観光地訪問を促進する要因を説明できる。 ④観光者の社会的に望ましい行動を促進する要因を説明できる。
③授業計画・内容 授業方法	1. イントロダクション：観光心理学の学術的位置づけ 2. 観光者の動機：プッシュ動機とプル動機 3. 観光者の動機：非日常性 4. 観光者の動機：測定 5. 観光地評価／イメージ：観光地イメージの構成要素 6. 観光地評価／イメージ：測定 7. 観光地評価／イメージ：観光地イメージの形成 8. 観光地訪問行動：観光者の類型、観光地選択 9. 観光地訪問行動：観光地訪問行動：満足度、愛着、ロイヤルティ 10. 観光地訪問行動：人間－環境系研究 11. 社会的に望ましい観光：観光地における観光者と住民の関係 12. 社会的に望ましい観光：観光者の環境配慮行動 13. 社会的に望ましい観光：測定 14. まとめ 15. 試験と講評 授業方法：授業方法：講義形式で行うが、測定に関する回では演習あるいは実演を含む。講義の順番は前後することがある。
④授業外学習	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味などを理解しておくこと。
⑤テキスト・参考書等	佐々木土師二（2007）観光旅行の心理学　北大路書房 橋本俊哉（編著）観光行動論　原書房 日本建築学会（編）よりよい環境創造の為の環境心理調査手法入門　技法堂出版
⑥成績評価方法	定期試験（80%）、毎講義後のレスポンスカートの内容（20%）を基に評価する。定期試験では、講義中に説明した概念とその測定（質問）方法（解析までは踏み込まない）に関する理解について評価する。ただし、出席が 70%に満たないものは評価の対象としない。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に指定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメール（naoi-taketo@tmu.ac.jp）でアポイントメントを取ること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	本科目は２年次推奨科目であるが、１年次推奨科目の「行動・経営科学概論」と連続して履修することが望ましい。

K0519	観光マーケティング科学	担当教員	直井　岳人、清水　哲夫	後期・水１	2単位
①授業方針・テーマ	本講義では、観光関連産業や地域単位での観光振興に特有のマーケティングについて、マーケティングの基礎理論を基に詳細に学ぶ。また、データに基づく科学的なマーケティングについて理解する機会を提供する為、各テーマに即したデータ解析事例を紹介する。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	・観光マーケティングに関わる概念，理論を理解する ・観光関連商品および観光者需要の特性と，両者間の関係性を理解する ・観光マーケティングに関わる主体とその関係性を理解する ・各テーマに関する科学的な理解に必要な解析の概要を理解する				
③授業計画・内容 授業方法	第１回：イントロダクション 第２回：マーケティングの基礎理論 第３回：観光関連産業とマーケティング環境 第４回：観光商品の特性 第５回：観光者需要：マーケットセグメンテーション 第６回：マーケティングミックス：商品のポジショニングと価格設定 第７回：マーケティングミックス：流通チャネル・プロモーション 第８回：マーケティングリサーチ 第９回：宿泊業におけるマーケティング 第１０回：旅行業におけるマーケティング 第１１回：観光地マーケティング 第１２回：観光マーケティングと ICT／IoT　その１ 第１３回：観光マーケティングと ICT／IoT　その２ 第１４回：インターナル・マーケティング（企業の場合と地域の場合） 第１５回：試験とまとめ				
④授業外学習	授業方法：講義形式で行う。講義の順番は前後することがある。				
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に指定しない。講義に必要な資料は適宜配布する。参考書・参考文献は必要に応じて紹介する。				
⑥成績評価方法	各回の授業内容に基づいて学期末に試験を実施し評価する。ただし、出席が 70%に満たないものは評価の対象としない。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に指定しないが、直接質問したい場合は随時受け付けるので、事前にメール（t-sim@tmu.ac.jp か naoi-taketo@tmu.ac.jp）でアポイントメントを取ること。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	本科目は２年生以上履修推奨科目だが、「統計学Ｉ」、「行動・経営科学概論」を履修しておくことが望ましい。また、観光関連産業の実態の理解の為、「ツーリズム産業論」の履修も推奨する。				

K0489	地域計画・マネジメント概論	担当教員	清水　哲夫、川原 晋、岡村　祐、野田　満、片桐　由希子、	後期・金４	2 単位

①授業方針・テーマ	生活や生業の場である都市や集落地域の空間や建造物と，そこで生まれる有形，無形の文化を観光資源として活用する観光や，その観光を通して地域環境の改善や魅力向上のための実践的な計画・実現手法の初歩を学ぶ。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	観光に深く関わる都市・地域計画や社会基盤計画の学問分野を対象に，分野横断的な計画・マネジメントプロセスと，プロセスに内在する分析・評価・実現のための技術体系の基礎を身につける.
③授業計画・内容 授業方法	【授業計画．内容】 1)イントロダクション：地域計画・マネジメントのプロセス（清水） 2)東京の観光開発の歴史的展開（岡村） 3)地域計画・マネジメントの実際と観光との関わり(1)：都市計画（岡村） 4)地域計画・マネジメントの実際と観光との関わり(2)：農村計画（野田） 5)地域計画・マネジメントの実際と観光との関わり(3)：コミュニティー・組織（川原） 6)地域計画・マネジメントの実際と観光との関わり(4)：緑地・オープンスペース計画（片桐） 7)地域計画・マネジメントの実際と観光との関わり(5)：地域交通計画（清水） 8)地域計画・マネジメント技術の基礎(1)：地域分析手法～地域特性把握手法（岡村） 9)地域計画・マネジメント技術の基礎(2)：地域分析手法～地域統計学（清水） 10)地域計画・マネジメント技術の基礎(3)：コミュニケーション技術（川原） 11)地域計画・マネジメント演習：地域観光のビジョンを共有する(1)（全員） 12)地域計画・マネジメント演習：地域観光のビジョンを共有する(2)　（全員） 13)地域計画・マネジメント演習：地域観光のビジョンを共有する(3)　（全員） 14)地域計画・マネジメント演習：地域観光のビジョンを共有する(4)　（全員） 15)最終試験 【授業方法】 ・第 10 回までは 講義を中心とした授業を実施するが，適宜質問を投げかけるなどインタラクティブな授業とする．各授業の最後に，内容の理解度を確認するためのフィードバックシートの提出を求める. ・第 11～14 回は調査，ディスカッション，プレゼンテーションによるグループワーク形式の授業を実施する.
④授業外学習	【授業外学習】 各回の授業スライドや関連資料を前もって kibaco に準備しておくので，事前にそれを予習しておくこと.
⑤テキスト・参考書等	取り扱う内容が多岐に渡るため，特定のテキストは使用しない．初回および各回で参考とすべき論文，テキスト，書籍等を提示する.
⑥成績評価方法	・地域計画・マネジメント演習の成果(25%)，各回のフィードバックシートの内容(15%)，最終試験の成績(60%)で評価する. ・正当な理由なく 6 回以上欠席した場合は，原則として成績評価の対象としない.
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	【質問受付方法】 固定的なオフィスアワーを設定しない．質問がある場合には随時対応するので，メール等で担当教員にアポイントを取ること. 清水哲夫：t-sim@tmu.ac.jp 川原晋：s_kawara@tmu.ac.jp 岡村祐：okamura@tmu.ac.jp 片桐由希子：yukiko-k@tmu.ac.jp 野田満：m_noda@tmu.ac.jp
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	

K0174	国土・インフラ計画と観光	担当教員	清水　哲夫、片桐　由希子	前期・水４	2単位

①授業方針・テーマ	本講義では，国土や広域スケールの空間やインフラの計画・マネジメントプロセスの基礎理論を学習するとともに，それらを観光振興に応用するための基本的考え方を理解する．
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	国・地域・都市で持続的な観光振興に不可欠となる，国土・地域・都市スケールの空間計画・マネジメント，およびグレー・グリーンインフラの整備・管理の計画・マネジメントの技法を身につけさせると同時に，それを観光振興に応用するための技術を身につけさせることを目指す．
③授業計画・内容 授業方法	【授業方法】 1)イントロダクション 2)観光振興における国土・インフラ計画 3)国土利用計画・マネジメントの考え方 4)緑地計画・マネジメントの考え方(1) 5)緑地計画・マネジメントの考え方(2) 6)水資源/エネルギー計画・マネジメントの考え方 7)交通インフラ計画・マネジメントの考え方(1) 8)交通インフラ計画・マネジメントの考え方(2) 9)交通インフラ計画・マネジメントの考え方(3) 10)インフラツーリズムの理念 11)観光資源としての公園・緑地 12)観光における環境価値推計方法 13)観光の環境負荷原単位 14)サステナブルツーリズム/オーバーツーリズム 15)試験とまとめ 【授業方法】 ・受講人数を考慮して講義を中心とした授業を実施するが，質問に答えさせたり，グループで考えさせたりするなど，インタラクティブな授業とする．各授業の最後に，内容の理解度を確認するためのフィードバックシートの提出を求める．
④授業外学習	各回の授業スライドや関連資料を前もってkibacoに準備しておくので，事前にそれを予習しておくこと．
⑤テキスト・参考書等	共通的なテキストは特に指定しない．各回の内容に応じて参考となるテキスト等を紹介する．
⑥成績評価方法	・平常点15%，受講態様15%，中間レポート(2回)20%，最終試験50%で評価する． ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は，原則として成績評価の対象としない．
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	固定的なオフィスアワーを設定しない．質問がある場合には随時対応するので，メール等で担当教員(清水：t-sim@tmu.ac.jp，片桐：yukiko-k@tmu.ac.jp)にアポイントを取ること．
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】 講義内容を適切に理解するために，事前に地域計画・マネジメント概論(K0489)の受講を薦める．

K0175	観光まちづくり論	担当教員	川原　晋、野田　満	後期・金２	２単位

①授業方針・テーマ	・観光まちづくりの視点での「地域資源の見出し方」と、観光まちづくりの具体的な「計画技術」を論じる。 ・観光分野と都市計画分野の手法を合わせ、良質な空間環境の保全・創出と、そこでの良質な観光コンテンツの創出との両輪を進める方法を論じる。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	都市・地域のなかから観光資源を発見しその魅力を読み解く方法やそれを観光対象化する方法と、また論理的かつビジュアルに伝えるためのプレゼンテーション方法を習得することを目標とする。 ・地域にある様々な素材を地域資源として価値化し、観光者が楽しめるように観光対象化するための見方や考え方の習得を目指す。また、それを論理的かつビジュアルに伝えるための多様な図解表現の方法を学ぶ。
③授業計画・内容 授業方法	■授業計画・内容 1.ガイダンス、「観光まちづくり」とは何か 〈空間資源と地域の魅力〉 2.都市構造が生み出す地域の魅力(近世城下町、宿場町、門前町等の都市を読み解く方法) 3.都市建築と公共空間が生み出す地域の魅力(集住の形、町家、中間領域、回遊空間) 4.公園、緑地が生み出す地域の魅力(都市の中の自然、参加のデザイン) 5.景観が生み出す地域の魅力(景観の概念、景観と観光開発、生活景、景観形成手法) 〈地域産業と観光〉 6.中心市街地の産業と観光まちづくり（中心市街地再生、エリアリノベーション) 7.工業と観光まちづくり【大田オープンファクトリーの視察】 8.中山間地域の産業と観光まちづくり（農山漁村の存続に向けた観光の取り組み) 〈イベントと観光まちづくり〉 9. 祭りと都市空間の解読（文化資源としての祭、社会実験としての祭) 10. MICE と観光まちづくり（国際会議、展示会等の大型集客イベントの活かし方〉 〈観光まちづくりの方法〉 11.計画実現手法の体系とプロセスデザイン（観光の手法、都市計画の手法) 12.地域経済の見直しと取り戻し（経済流出の実態〉 13.人的資源の繋げ方と活かし方（「ホスト-ゲスト」を越えた地域と人との関係づくり) 14.観光地経営、地域ブランディング（DMO、地域ブランドという地域資源) 15.テスト・講評 ■授業方法・講義形式 受講者自らが観光資源を発見し、その魅力を伝えるための技術を身につけるための演習も行う。
④授業外学習	kibaco にて事前に読んでおく資料を配布する。 また授業中に紹介する参考図書や、配布する資料を授業後に読んで、次回の授業に出席することが望まれる。 授業内で行うミニ演習では、作業や思考の仕方を演習するので、授業外の時間で演習作業を完結させること。
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に指定しない。必要な参考資料は適宜配布する。
⑥成績評価方法	平常点(30%)＋期末テスト(70%)によって総合的に評価を行う。 出席が７割に満たないものは、成績評価対象としない。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等)	オフィスアワーは、原則水曜日午前を設定する。事前に s _kawara@tmu.ac.jp に連絡すること。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性)	・３年前期の「観光まちづくりプロジェクト論演習１」を行う際の基礎となるので、本科目を２年次に履修しておくことが望ましい。 ・各回の演習で色鉛筆を使用する。赤、青、黄色、緑、茶色、オレンジ、紫を少なくとも用意すること。その他、演習課題に必要な道具類については、初回ガイダンス時に説明する。

K0232	自然環境マネジメント概論Ⅰ	担当教員	菊地 俊夫、沼田 真也、 大澤 剛士	後期・月１	２単位
①授業方針・テーマ	自然ツーリズム学の基本的な理念と考え方・方法論を学ぶとともに、そのフレームワークを用いた自然環境や環境資源の保全・保護と適正利用の仕方と、それらの調整方法を身につける。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	自然ツーリズムにおいて、陸域、陸水と海洋の生態系を含む自然環境の変化や環境資源を的確に把握することは重要であり、その把握する方法を習得する。また自然ツーリズムでは、生物多様性の保全しながら、自然災害の拡大を回避するため、自然環境資源の保全・保護と適正利用をともに図り、調整することも重要であり、それらの方法も習得する。また、授業の一環として２回の野外実習を実施する。				
③授業計画・内容 授業方法	１．自然ツーリズム学の枠組みと本質・方法論（沼田） ２．大地の仕組みから自然環境を考える：多様な地球環境を特徴づける陸水と海洋（未定） ３．大地の仕組みと生態系：生態系の要としての土壌をつくる気候、植生、地形（未定） ４．大地の仕組みと環境の適正利用：人為および自然災害による環境劣化と修復（未定） ５．植物の生態：気候、植生とその自然史（未定） ６．動物の生態：世界の動物相とその自然史（沼田） ７．自然環境の保全と適正利用：生物多様性と自然保護の観点から（沼田） ８．野外実習：里山保全の本質と基本―暁町緑地保全地域から学ぶ―（菊地） ９．開発と自然環境：環境資源は開発すべきか、保全すべきか（菊地） 10．自然環境問題と法制度（沼田） 12．エコツーリズム：自然保護と適正利用の調整理論を学ぶ（菊地） 13．ルーラルツーリズム：開発保全計画と地域振興の相互関係を学ぶ（菊地） 14．野外実習：自然ツーリズムの風景をあるく、みる、きく（菊地） 15．試験とまとめ（菊地）				
④授業外学習	授業外学習として、以下の参考書を予習復習として読んでおくこと。				
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に指定しない。講義に必要な資料は適宜配布する。参考書・参考文献も適宜紹介するが、講義内容の予習復習として以下の書籍を購読すること。 菊地俊夫・有馬貴之編著（2015）:「自然ツーリズム学」朝倉書店.				
⑥成績評価方法	各回の授業内容に基づいて試験ないしはレポートの提出を行う。また、野外実習により簡単なレポートを作成する。それらによって評価する。ただし、出席が 70%に満たないものは評価の対象としない。				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは木曜日の２時限。				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	野外実習は土曜日ないし日曜日に実施する。その日程は第１回の授業で相談して決める。 自然ツーリズム学概論Ⅰは「ECO-TOP プログラム」の必修科目である。				

K0515	自然環境マネジメント概論Ⅱ	担当教員	菊地 俊夫、沼田 真也、 大澤 剛士	前期・月４	2 単位

①授業方針・テーマ	自然ツーリズム学の理念と考え方・方法論を学ぶとともに、自然ツーリズム学のフレームワークを用いた自然環境や環境資源の保全・保護と適正利用の仕方と、それらの調整方法を身につける。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	原則として自然ツーリズム学概論Ｉを履修していることが受講の条件である。この講義で陸域、陸水と海洋の生態系を含む自然環境の変化や環境資源を的確に把握することは重要であり、そのための応用的・専門的知識の理解を深める。また、自然や環境資源を的確に把握する方法を習得することはもちろんのこと、それらの方法を地域や環境に適応させ生物多様性の保全しながら、自然災害の拡大を回避するための方法論を学ぶ。さらに、自然保護と適正利用をともに図り、調整する方法も習得し、その実践的な可能性を専門的な知識を基盤にして詳細に検討する。講義では、授業の一環として、自然ツーリズムに関する専門的な知識や技能を実践するために野外実習を実施する。実習を通じて自然や環境、あるいは地域の総合的に理解することを学ぶ。
③授業計画・内容 授業方法	１．自然ツーリズム学の応用とその視点（菊地） ２．半自然環境の保全と適正利用：人間が介在する生態系と管理（大澤） ３．半自然環境の保全と適正利用：資源の利用価値と非利用価値（大澤） ４．野外実習：モバイルデバイスを利用した資源調査の実践（大澤） ５．室内実習：：調査結果の視覚化・オープン化（大澤） ６．自然環境の保全と適正利用：植物の生態（沼田） ７．自然環境の保全と適正利用：動物の生態（沼田） ８．自然環境の保全と適正利用：生態環境の保全と適正利用（沼田） ９．自然環境の保全と適正利用：熱帯雨林の自然ツーリズム（沼田） 10．地域資源の保全と適正利用：自然環境の変化を理解する（菊地） 11．野外実習：地域資源の保全と適正利用を景観から読み解く（菊地） 12．野外実習：里山保全の仕組みと方法―暁町緑地保全地域の実践から学ぶ（菊地） 13．地域資源の保全と適正利用：オーバーユースと自然災害（菊地） 14．地域資源の保全と適正利用：自然保護と観光振興の調整メカニズム（菊地） 15．試験とまとめ（菊地）
④授業外学習	講義内容の予習復習として以下の書籍を購読すること。 菊地俊夫・有馬貴之編著（2015）:「自然ツーリズム学」朝倉書店.
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に指定しない。講義に必要な資料は適宜配布する。参考書・参考文献も適宜紹介するが、
⑥成績評価方法	試験ないしはレポート、および野外実習の参加状況よって評価する。ただし、出席が 70%に満たないものは評価の対象としない。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは木曜日の２時限。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	野外実習は土曜日ないし日曜日に実施する。その日程は第１回の授業で相談して決める。 原則として、前期に開講した自然ツーリズム学概論Ｉを履修していること。

K0523	生物資源学	担当教員	大澤　剛士	後期・火３	2 単位

①授業方針・テーマ	生物資源は、生物多様性および生態系から得られる恵み、すなわち生態系サービスと捉えることができる。このため、生物資源を理解するためには、その供給源となる生物多様性および生態系に対する理解が欠かせない。本講義は、生物資源の供給源である生物多様性および生態系への理解を、生態学を機軸として学ぶことで、生物資源の持続的利用に向けた基本的な考え方を身に着けることを狙いとする。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	生態学の基本である生物と環境の関係性についての基礎的な知識を習得し、自然資源管理における生態学の役割を理解する。さらには習得した知識を基盤とし、生物資源の持続的な利用に向けた論理的な考え方を議論する力を身に着ける。
③授業計画・内容 授業方法	・授業の方法 液晶プロジェクターによる投影資料を主に、適宜板書を利用する。学内あるいは徒歩圏の周辺を対象にフィールドワーク、ならびに講義内でディスカッションを目的としたワークショップを実施する予定。 ・日程 以下のように進める予定だが，内容や順番を一部変更する場合がある。2-3 回程度をひとまとまりとしてテーマ設定を行う。フィールドワークの実施日程は天候等を見ながら事前に通知する。 1. ガイダンス 2-4. 生態学の基礎と考え方（生態学とは何か、生態学における階層性、生物と環境の相互作用） 5-6. 生態学と社会問題の接点（一般社会におけるエコロジー、科学リテラシーの重要性） 7-9. 生物多様性と生物資源、生態系サービス 10-11. 生物資源の持続的な利用 12-13. 生物多様性情報学、最新の研究事例紹介 14. 全体まとめ 15. 試験および用語解説
④授業外学習	各回において資料を配布するので、復習に利用すること。
⑤テキスト・参考書等	資料は基本的に毎回配布する。参考図書も適宜紹介する。
⑥成績評価方法	講義内のミニレポート（50 点）および試験（50 点）で評価する。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	質問については随時メールで受け付ける。また、各回においてコメントカードを配布するため、それも適宜利用する。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	前年度（旧課程）の環境生態学Ｉと同等の内容であるため、前年度に環境生態学Ｉを履修済みの学生は原則として履修を認めない。

K0283	観光地誌学	担当教員	菊地 俊夫	後期・月３	2 単位

①授業方針・テーマ	地誌学の基本的な考え方と方法論を学ぶと共に、地誌学の方法を用いた地域の見方・考え方を身につける。
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では、日本を中心に事例地域を設定し、静態地誌と観光を主体とする動態地誌、および比較地誌から世界や日本の諸地域の性格を解明し、地誌学の方法論を習得する。また、地誌学の理解を深めるために１回程度の野外巡検を実施する。
③授業計画・内容 授業方法	1. 地誌学の目的と方法―静態地誌と動態地誌、および比較地誌― 2. 州大陸レベルの静態地誌―オーストラリアの静態地誌― 3. 州大陸レベルの動態地誌―オーストラリア観光の動態地誌― 4. 国家レベルの静態地誌―ニュージーランドの静態地誌― 5. 国家レベルの動態地誌―ニュージーランド観光の動態地誌― 6. 巡検：国分寺崖線を歩く、見る―観光と自然の関わりを考える― 7. 地域レベルの静態地誌―パリ大都市圏の静態地誌― 8. 地域レベルの動態地誌―パリ観光の動態地誌― 9. 日本の動態地誌―日本の森林環境から地域を読み解く― 10. 日本の小地域における動態地誌―軽井沢の動態地誌― 11. 日本の観光地域の比較地誌（その１）―日本の温泉地域の比較地誌― 12. 日本の観光地域の比較地誌（その２）―日本のスキー場集落の比較地誌（総論編）― 13. 日本の観光地誌の比較地誌（その３）―日本のスキー場集落の比較地誌静態地誌（各論編）― 14. 静態地誌と動態地誌、および比較地誌の TPO―3 つの方法論をどのように使い分けるか 15. 試験と解説
④授業外学習	講義の予習復習として以下の書籍は購読すること。 菊地俊夫編著（2008）:「観光を学ぶ―楽しむことからはじまる観光学―」二宮書店. 菊地俊夫編著（2011）:「世界地誌シリーズ　日本」朝倉書店. 菊地俊夫・小田宏信（2014）:「世界地誌シリーズ　オセアニア・東南アジア」朝倉書店
⑤テキスト・参考書等	テキストは特に指定しない。 講義に必要な資料は適宜配布し、参考文献は必要に応じて紹介する。
⑥成績評価方法	試験とレポートで評価する。 ただし、出席が 80%に満たないものは試験を受けることができない。
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは水曜日 3 時限。
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	奇数年度開講のため、2019 年度は開講する。

■観光マネジメント副専攻コース専門教育科目

N0001	観光関連法規概説	担当教員	戸崎 肇*、清水 哲夫	前期･木2	2 単位
①授業方針・テーマ	観光関連法規が、現在の日本の観光政策、観光産業、そして旅行者の観光行動等にどのような影響を及ぼしているのか、あるいはどのような課題を抱えているのかを体系的に学ぶ。 また一部の講義に関しては、観光行政の第一線で活躍する若手官僚から、日本の観光が直面する問題解決のために、法律改正を含めていかなる取組みをしようとしているのかをレクチャーしていただく。				
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本の観光のダイナミックな動きと諸課題を学ぶとともに、行政の現場の状況などを含めて体系的に観光関連法規について習得する。				
③授業計画・内容	１　オリエンテーション ２　観光関連法規の体系 ３　観光立国推進基本法、観光立国推進基本計画（１） ４　観光立国推進基本法、観光立国推進基本計画（２） ５　旅行業法（１） ６　旅行業法（２） ７　旅行業に関するケーススタディ ８　国家戦略特区 ９　旅館業法・「民泊新法」 １０観光圏整備法 １１景観法 １２歴史まちづくり法 １３休暇関連法 １４他の観光関連法規 １５まとめと試験 [授業方法]講義とディスカッション				
④授業外学習	観光政策の動向について新聞や雑誌などを通じて情報を得るよう努力すること。 場合によっては関連施設の見学を行う。				
⑤テキスト・参考書等	参考書：戸崎『観光立国論』、現代書館、2017 年				
⑥成績評価方法	平常点 50%、試験・レポート 50%				
⑦質問受付方法（オフィスアワー等）	オフィスアワーは特に設定しませんが、直接質問したい場合は随時受付しますので、事前にメールでアポイントメントをとってください。（授業内で連絡先をお伝えします。）				
⑧特記事項（他の授業科目との関連性）	[他の授業科目との関連性] 旅行産業論、宿泊産業論、ホスピタリティ産業の経営戦略論				

N0002	観光ビジネス･ゼミナール	担当教員	未定	不開講	2 単位
授業方針・テーマ	※2019 年度不開講				

N0003	観光マネジメント・インターンシップ	担当教員	未定	不開講	2 単位
授業方針・テーマ	※2019 年度不開講				

N0004	宿泊産業・ゼミナール	担当教員	未定	不開講	2 単位
授業方針・テーマ	※2019 年度不開講				

N0005	宿泊旅行サービス研究	担当教員	未定	不開講	2 単位
授業方針・テーマ	※2019 年度不開講				

成績の評価項目と基準

成績評価は各科目のシラバスに記載されている成績評価方法（項目）に従い行われ、以下の評価基準に従い公表される。なお、成績証明書の成績表示変更に伴い、入学年度によって成績証明書の表記が異なるので、下記を参照のこと。

＜2019 年度以降入学者　成績表示＞

成績表示	Grade Point	単位	成績評価基準	100点法（目安）
5	4.0	○	到達目標を十分に達成し、きわめて優秀である。	90点以上
4	3.0	○	到達目標を十分に達成している。	80～89点
3	2.0	○	到達目標を達成している。	70～79点
2	1.0	○	到達目標を最低限達成している。	60～69点
1	0.0	×	到達目標を達成していない。	59点以下
0	0.0	×	評価の対象とならない。	

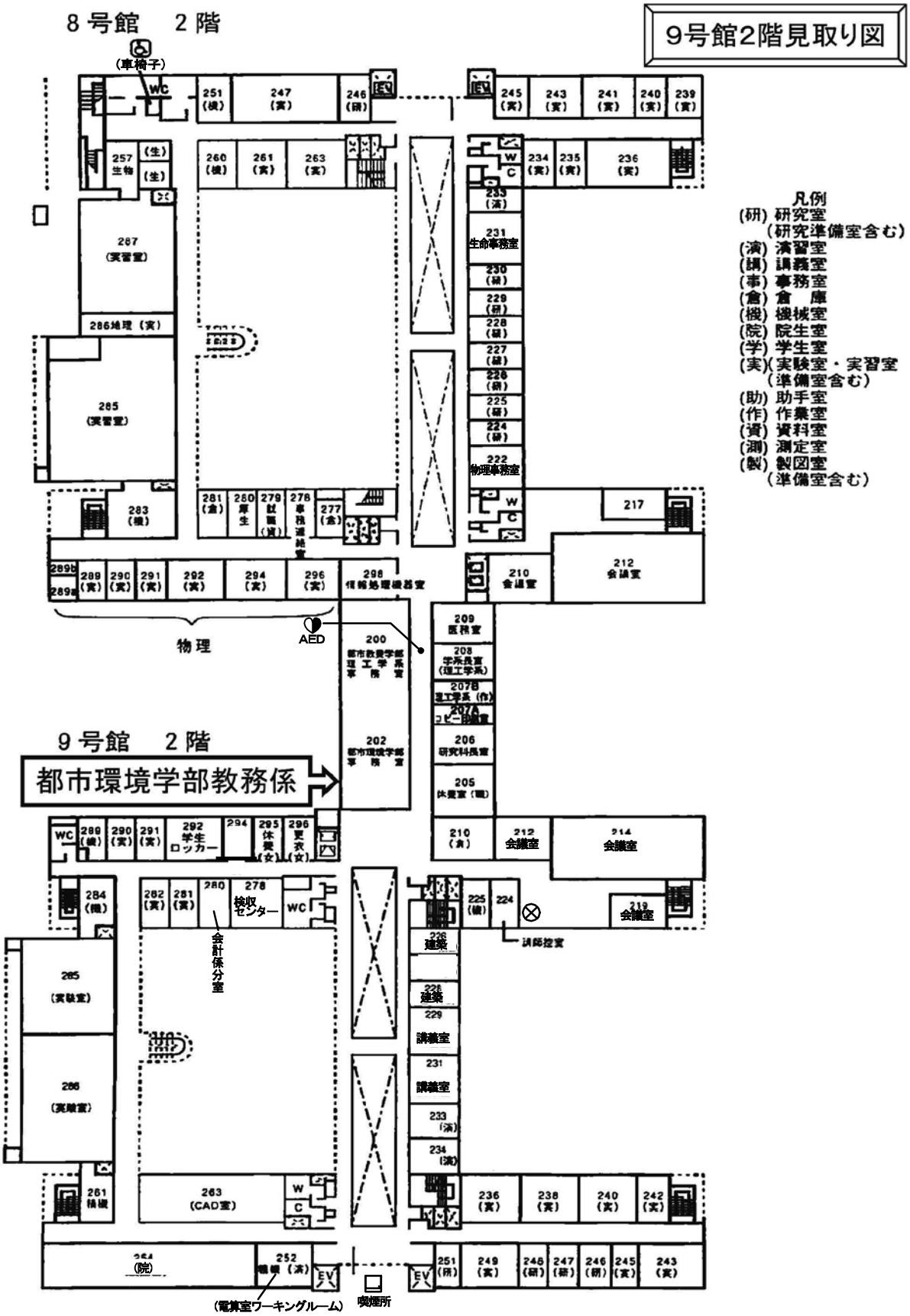
＜2016-2017 年度入学者　成績表示＞

成績表示	成績証明書の表示	程度	100点法	GPA 素点
5	秀	非常に優れている	90点以上	4.0
4	優	優れている	80～89点	3.0
3	良	普通	70～79点	2.0
2	可	やや劣る	60～69点	1.0
1	表示せず	劣る	59点以下	0.0
0	表示せず	評価の対象にならない		0.0

＜2015 年度以前入学者　成績表示＞

成績表示	成績証明書の表示	程度	100点法	GPA 素点
5	優	非常に優れている	90点以上	4.0
4	優	優れている	80～89点	3.0
3	良	普通	70～79点	2.0
2	可	やや劣る	60～69点	1.0
1	表示せず	劣る	59点以下	0.0
0	表示せず	評価の対象にならない		0.0

9号館2階見取り図


8号館　2階
(車椅子)
WC
251 (機)
247 (実)
246 (研)
EV
245 (実)
243 (実)
241 (実)
240 (実)
239 (実)
257 生物
(生)
(生)
260 (機)
261 (実)
263 (実)
W C
234 (実)
235 (実)
236 (実)
233 (演)
231 生命事務室
230 (研)
229 (研)
228 (研)
227 (研)
226 (研)
225 (研)
224 (研)
222 物理事務室
287 (実習室)
286地理 (実)
285 (実習室)
283 (機)
281 (倉)
280 厚生
279 試験 (資)
278 事務連絡室
277 (倉)
217
289b
289a
289 (実)
290 (実)
291 (実)
292 (実)
294 (実)
296 (実)
298 情報処理機器室
210 会議室
212 会議室
物理
AED
200 都市教育学部 理工学系 事務室
209 医務室
208 学系長室 (理工学系)
207B 理工学系 (作)
207A コピー印刷室
202 都市環境学部 事務室
206 研究科長室
205 休憩室 (職)
9号館　2階
都市環境学部教務係
WC
289 (機)
290 (実)
291 (実)
292 学生ロッカー
294
295 休憩 (女)
296 更衣 (女)
210 (倉)
212 会議室
214 会議室
284 (機)
282 (実)
281 (実)
280 会計係分室
278 検収センター
WC
225 (機)
224 講師控室
219 会議室
226 建築
228 建築
229 講義室
231 講義室
233 (演)
234 (演)
285 (実験室)
286 (実験室)
261 機械
263 (CAD室)
W C
236 (実)
238 (実)
240 (実)
242 (実)
264 (院)
252 (電算室ワーキングルーム)
EV
喫煙所
EV
251 (研)
249 (実)
248 (研)
247 (研)
246 (研)
245 (実)
243 (実)
凡例
(研) 研究室
(研究準備室含む)
(演) 演習室
(講) 講義室
(事) 事務室
(倉) 倉　庫
(機) 機械室
(院) 院生室
(学) 学生室
(実)(実験室・実習室
(準備室含む)
(助) 助手室
(作) 作業室
(資) 資料室
(測) 測定室
(製) 製図室
(準備室含む)

別記第１号様式（第６条関係）（観光経営副専攻コース、観光マネジメント副専攻コース用一部加筆版）

平成　　年　　月　　日

副専攻コース履修申出書

<table>
<tr><td>所　属</td><td colspan="2">＿＿＿＿＿＿＿＿学部＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿学科・系・コース</td></tr>
<tr><td>学修番号

学年・氏名</td><td colspan="2">学修番号＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

学年＿＿＿＿・　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿</td></tr>
<tr><td>副専攻コース名</td><td colspan="2">観光経営副専攻コース　(2017 年度[平成 29 年度]以前入学)
観光マネジメント副専攻コース　(2018 年度[平成 30 年度]以降入学)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">確　認　欄</td><td>学務課等担当者</td><td>備　　考</td></tr>
<tr><td></td><td></td></tr>
</table>

（日本工業規格Ａ列４番）

※観光経営副専攻コース、観光マネジメント副専攻コースの履修を希望する学生は、本様式に必要事項を記入し、都市環境学部教務係窓口に提出すること。

※学務課等担当者は受付の際、本申出書の写しを学生に交付する。

２０１９年度
首都大学東京
「観光経営副専攻コース」
「観光マネジメント副専攻コース」シラバス

２０１９年４月１日発行

発　行　　首都大学東京都市環境学部
東京都八王子市南大沢一丁目１番地
〒192-0397　電話(042)677-1111（代表）

印　刷　　システム印刷株式会社

VEGETABLE OIL INK
リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。